

Childline Annual Report 2023



特定非営利活動法人
チャイルドライン支援センター（認定 NPO）

チャイルドラインのミッション

子どもの権利条約の理念に基づき、子どもの「声」を受けとめることで、
子どもがありのまま安心してできる心の居場所を作ります

また、受けとめた「声」を社会に発信し、子どもが生きやすい社会を目指します

2023 チャイルドライン年次報告 目次

ごあいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

チャイルドラインからの提言

子どもの声を聴く・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

小中高生が生きていこうと思える社会であるために・・・・・・・・ 6

チャイルドラインとは・・・・・・・・・・・・ 12

子どもの「声」を受けとめる

子どもの「声」・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

受けとめた「声」のデータ・・・・・・・・ 16

子どもにきいてみた ～知ってるかなアンケート～・・・・・・・・ 25

子どもの生きやすい社会をめざす

子どもへの広報・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

チャイルドライン全国キャンペーン・・・・・・・・・・・・ 30

ネットでんわ試行／行政機関との連携・・・・・・・・・・・・ 31

チャイルドライン支援議員連盟総会・勉強会・・・・・・・・・・・・ 32

ご支援・ご協力一覧・・・・・・・・・・・・ 34

パブリシティ・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

チャイルドライン実施体制と運営

全国各地のチャイルドライン・・・・・・・・・・・・ 37

チャイルドライン支援センター・・・・・・・・・・・・ 40

編集後記

ごあいさつ

『子どもにきかなければ始まらない』とチャイルドラインが子どもの声を聴く活動を始めて、四半世紀がたとうとしている。世界的に、チャイルドヘルプラインという社会システムがつくられてから半世紀がたつ。

子どもの声を聴く、というと子どもの言う通りにしなければならぬというプレッシャーを感じる人も多いのではないだろうか。しかし、きくということは、その通りにすることではない。自分の発言が通らないと「きいてくれない」と言う人が多い。そして「自分の言う通りになぜしないのだ」「自分（だけ）が正しい、あなたは間違っている」と主張する。しかし、その通りすれば、他の人にとって都合が悪い場合もある。お互いの立場や違いを受けとめ、理解し、譲り合い（折り合いをつけ）、よりよい方向を目指すことで、この社会をつくってきたはずなのに。相互尊重の原則が崩れると、支配する側、される側を生むことになる。

最近の「子どもに聴く」という流れからは、「子どもにききました。こう思っています」というアリバイづくりも起きがちだ。その危険性を認識し、自らを正当化しない努力をしたい。

子どもの側に立つと言っても、限界があるのは承知である。この年次報告もまた、聴いたおとなの独りよがりになる危険性がある。電話、チャット、「つぶやく」等、子どもの声を聴く手段を拡げてきたチャイルドラインは、子どもの声の受け皿になり得るのか、子どもの代弁者となり得るのか、分析というまでには至っていないかもしれないが、ぜひ、この年次報告を見ていただきたい。

電話から始まったチャイルドラインが、インターネットの普及からチャットを加えて7年、「つぶやく」を始めて3年。そして昨年度から、ホームページを使って子どもにアンケートを取ったり、意見を聴くことを始めた。「自分だけが思っていることだから……」「自分のことではないし……」と無責任、無力感を募らせるのではなく、自らも社会を作る担い手として、意見表明が大切だということを子どもに知ってほしいと考えている。

この年次報告を通して、子どもの声、子どもたちの思いを社会やおとなにぶつけたい。私たちは、どのような社会をつくりたかったのか、今後どうしたいのかをみなさんと共に、謙虚に考えていきたい。

チャイルドライン発足から長年支えてくださっているチャイルドライン支援議員連盟を始め、自殺防止対策の厚生労働省、新たに創設されたこども家庭庁、孤独・孤立対策の内閣官房、文部科学省、総務省等各省庁のみなさま、日本労働組合総連合会、JKA、多くの企業のみなさまにご支援いただきました。厚く御礼申し上げます。

これからも、チャイルドラインは、子どもたちの声を受けとめ続けると共に、子どもの権利条約の理念のもと、子どもの視点で発信し続けていきます。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人

チャイルドライン支援センター 代表理事 竹村 浩



※百分率で表しているデータは四捨五入の関係で合計が100%にならないことがあります。
※事例は、個人が特定できないようプライバシーに配慮して再構成しています。
※「子どもからの質問・意見・感想」はチャイルドラインのウェブサイトを通じて寄せられたものです。（公表することを明記し募集しています。）

子ども主体を実現する

日本の子どもたちは、不幸である。少なくとも、幸福ではない、とデータは表している。(※ 1.) 24 年間子どもの声を聴いてきたチャイルドラインは、毎年 15 万件以上の子どもたちの声を受けとめてきた。この年次報告を読み進めていただくとわかる通り、チャイルドラインには、嬉しい、楽しいという声も入るが、不安な気持ち、閉塞感、怒りや憤りなど、自分だけではどうしようもない「声」がほとんどである。モヤモヤした気持ちを聴くチャイルドラインであるが、たとえば主訴としてあがる「いじめ」は、子ども同士の関係性で済まされるものではない。子どもが話す関係性のほとんどは、親等の養育者や教師、地域等のおとなとの問題であり、その背後にある社会との問題である。

1994 年の国連子どもの権利条約批准以後、自治体レベルでの子どもの権利条例・子どもオンブズパーソン条例の制定(※ 2.)等、市民、NPO や自治体、学識経験者等による努力はあったものの、遅々として進まなかった子どもの権利保障の動きは、2016 年の改正児童福祉法を始め、こども基本法制定、こども家庭庁の設立、とようやく施策が進んできた。そして社会的養護・養育に関わる福祉の分野から、子どもの気持ちや意志を聴く動きが始まってきた。今後も、子どもの声及び子ども参加(※ 3.)に基づいて、子どもの福祉だけではなく、子ども施策全般、ひいては全ての自治体での子どもにやさしいまちづくり(※ 4.)に、チャイルドラインが果たしていく役割は大きいと考えている。

子どもの幸福度の結果：日本の分野別順位(総合順位は 20 位)

分野	指標
精神的幸福度 37 位	生活満足度が高い 15 歳の割合
	15 ～ 19 歳の自殺率
身体的健康 1 位	5 ～ 14 歳の死亡率
	5 ～ 19 歳の過体重 / 肥満の割合
スキル 27 位	数学・読解力で基礎的習熟度に達している 15 歳の割合
	社会的スキルを身につけている 15 歳の割合

※1. 2020年ユニセフ・イノチェンティ研究所による「レポートカード16—子どもたちに影響する世界:先進国の子どもの幸福度を形作るものは何か(原題:Worlds of Influence: Understanding what shapes child well-being in rich countries)」に於いて、日本の子どもの精神的幸福度は、38カ国中37位という結果となりました。(ユニセフHPより)



※2. 2022年10月現在62自治体において子どもの権利条例・子どもオンブズパーソン条例が制定されている。(子どもの権利条約総合研究所HPより)

※3. 2015年9月下旬の国連総会で、17の目標と具体的なターゲット169の項目からなる国連持続可能な開発目標(SDGs)が採択されました。SDGsでは、子どもへの投資が社会的課題であるだけでなく、社会・経済・環境全ての側面で持続可能な開発の達成に貢献し、子どもへの投資が子ども自身にとっても社会全体にとって高い効果があると位置づけました。また、子どもが保護の対象であるだけでなく、変化の主体と位置付けられました。(ユニセフHPより)

※4. 子どもにやさしいまちづくり事業(CFCI)とは、子どもと最も身近な行政単位である市町村等で、子どもの権利条約を具現化する活動です。その特徴は、「まち」の人々がみんなでみんなの「まち」を作っていくこと、とりわけ、子どももまちづくりの主体、当事者として位置付けることです。

おとなの都合で振り回さないで！

～自分探しは(子ども・おとな)共通課題？ でもおとなには責任(子どもは権利)があるよ！～

子どもの代弁者として 今こそ、声を大にして叫ばなければならない

子どもを「ちゃんと人として扱ってほしい」ことを

子どもたちは、「いい加減にして！」と言いたいのではないだろうか

わたしたちおとながつくってきた、そして今尚つくり続けているこの世界は

子どもたちからすれば、どんな世界なのだろう

チャイルドラインに入ってくる「虐待」「ヤングケアラー」の件数は、年間 1,600 件以上に上る。要支援家庭、要保護家庭で暮らす子どもたちからのアクセスは、ごく一部だと考えると、それは氷山の一角だ。

生臭い、独特の匂いが玄関を開けると押し寄せてくる。使われていない流し台、油でギトギトになった床。足の踏み場もない。訪問しても寝ていて起きることのできない養育者。社会的養育の対象になる家庭のよくある様子である。猫やウサギなどのペットを飼っていることもよくある。自分よりペットを大事にする養育者を気遣う子どもたちを見て、養育者を責めてみても始まらない。自分たちの非力さと、地域の関わり方の薄さを嘆いてみても、その子の状況は変わることはない。そして親子分離、措置された子どもたちが、遙かに規則正しい生活を送ることができるはずの一時保護所、児童養護施設、里親等より、親等の養育者と暮らすことを望むことが多いのが現実である。関わる支援者からすると、何とも言えない心境になる。子どもの最善の利益とは何なんだろうと考えさせられる。

要支援家庭において、養育者自身が双極性障害(そううつ病)、統合失調症等の精神障害や疾患や他者への依存等を抱えるケースも多く、専門家が関わることが多い。子ども自身の成長発達の課題が置き去りにならないためには、地域のごく普通の人の関わりが重要である。子どもの最善の利益を保障するには市町村の子ども福祉部局だけに任せず、私たち地域の力が必須なのだ。共働きが当たり前となった現在、少子化対策・子育て支援の名のもとに生み出された、塾、お稽古、預かりというサービスは過剰ではないか。それは、誰のためなのだろうか。本当に子どものためになるのだろうか。子どもの声は届いているのだろうか。

昨今取り沙汰される「ヤングケアラー」は、当たり前の

ように、家事をし、兄弟の面倒を見る。その環境で育ったからだ。当事者は他者に助けを求めない。その養育者(親等)もまた、同様に、何が当たり前で、何が特別なのか、わかっていないのが現状である。支援者は変えてやる、よくしてやるということではなく、「少しでもましにする」ぐらいである。主体は本人だけだからである。そうはいっても、第三者の関わりが、変化をもたらすことは確かだ。養育者(親等)のみならず、子どもたちにとっての環境の変化である。子ども自身がどう生きたいのかという意志が最も大切だが、それを一緒に考える。多様な考え方、生活、環境、選択肢があつてこそ、「どうしたいのか」と問うことができる。電話やチャットで「聴く」なかで子ども自身が自分の意志や気持ちを形作っていく。子どもが自分の人生を生かされるよう、私たちはそのプロセスに関わらなければならない。

自分自身の人生を生きる必要があるのは、子どもたちだけではなく、おとな自身もなのだ。おとなが幸せでないと、子どもも幸せになれない。だからといって、子どもを、そして子どもの活動を、おとながエゴな自己実現の種にしてはいけない。エゴを超えることが私たちおとなに求められるのだ。

子どもたちに、この世界が当たり前ではなく、本当は理不尽な世界であることに気付き、そしてそれを変えていけるのだということを感じてほしい。そのためには、子どもが弱い、保護してあげなければならない存在ではなく、私たちおとなが、自分たちの身勝手さを認め、子どもを自分の所有物ではなく自己実現の道具でもない、一人の人間として尊重し、共に歩んでいくパートナーとして認めることが、今本当に求められている。

子ども主体の視点から、改めて、「傾聴」について考える

～「子どもの声を聴く」ことをおとなのアリバイづくりにしない～

近年、「聴く」ということの重要性が叫ばれるようになってきたが、25年目を迎えた日本のチャイルドライン活動の中心には常に「傾聴」がある。チャイルドラインにかけてくる子どもたちの動機は圧倒的に「聴いてほしい」である。核家族化が進み、地域の関わりが希薄になり、子どもたちに関わるおとな、特に第三者的な利害に直接関係しないおとなが減っていくなかで、チャイルドラインは電話やチャット、「つぶやく」というシステムを使って、子どものありのままを受けとめ、子ども自身のエンパワメントを支えることをひとつの目的として活動してきた。

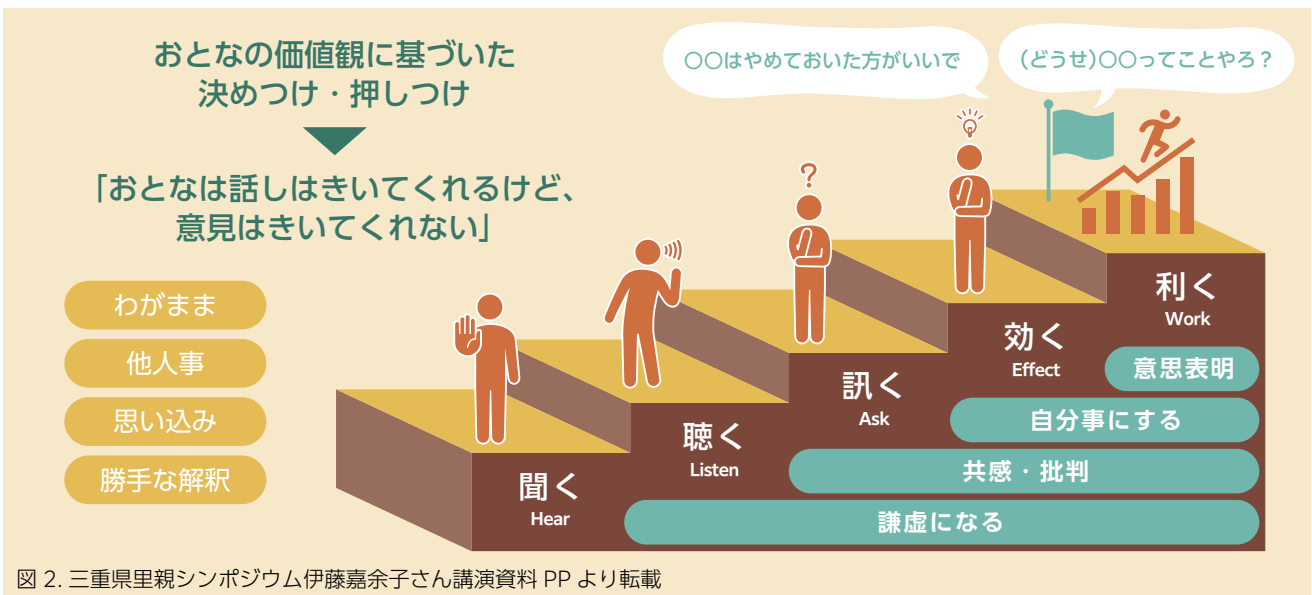
子どもには、意見を言う権利と、意見を聴かれる権利（子どもの権利条約第12条）がある。子どもたちの「意見を聴かれる権利」を守るために、児童福祉法が改正された（2024年4月1日施行）。具体的には、児童相談所を設置する都道府県などに対し、一時保護後に、児童養護施設などで生活することを決める際には、あらかじめ子どもから意見を聴くことを義務化すること、そして、子どもをサポートする、「意見表明支援員」を配置するなど、意見を言いやすい環境整備に努めることを求める。虐待などの被害を受けた子どもが、施設での生活や児童相談所の対応などでさらに追い詰められることは、あってはならないこと

で、今回の法改正により子ども主体の決定がされていくことを望む。

ここでは、傾聴の提唱者である臨床心理学者カール・ロジャーズの考え方をふりかえりながら、デザイン国語から新しい視点で発信している大阪公立大学の伊藤嘉余子教授の切り口を交えて、考察していきたい。

ロジャーズは、晩年、リフレクション（伝え返し、映し出し）がただの「オウム返し」の技法と誤解されたことを受けて、“その内実は、クライアントの体験世界の「鏡」になることであり、その「鏡」に映し出された相手の内面的世界についてのこちらの理解や受け取りをクライアントに確かめてもらうことにある”（P212 諸富祥彦『カール・ロジャーズ カウンセリングの原点』角川選書 2019年）と言っている。

つまり「鏡」になるとは、子どもが自分自身を見つめていくプロセスに寄り添い、その勇気、挫折、恐怖と共に味わい、乗り越えることを、気負いなく、しかも本気で挑もうとすることである。子どもが、本当の自分自身になるためには、相手が必要なのだ。鏡となって聴いてもらえたとき、寄り添うおとなは消え、子ども自身は、孤独ではなく、自分を受けとめ、自分のしたいこと、していきたい気持ち、



意志、意見をありのまま、自分の中で受けとめていけるようになる。そういった境地に達することができる。チャイルドラインは、鏡として傾聴を通して、このようなプロセスに立ち会う。

伊藤嘉余子教授は、子どもアドボカシー＝権利擁護の視点で「聴く」をデザインと国語の切り口で読み解いている。“一般におとなが子どもの意志を知りたいとき調査的な関わりが多い。おとなが聞きたいと思うことを聞き、それに子どもが答える形で「語り合い」は進む。「聞き取り」に近い。こういった調査的な関わり方、つまりおとなの言葉が先にある「語り合い」はおとなのフィールドで会話が進む。おとなは無意識に誘導的になり、子どもは自分の思いではなく、おとなが期待している答えを話してしまう。こうして、伝えたいことと伝えたことが一致しないという

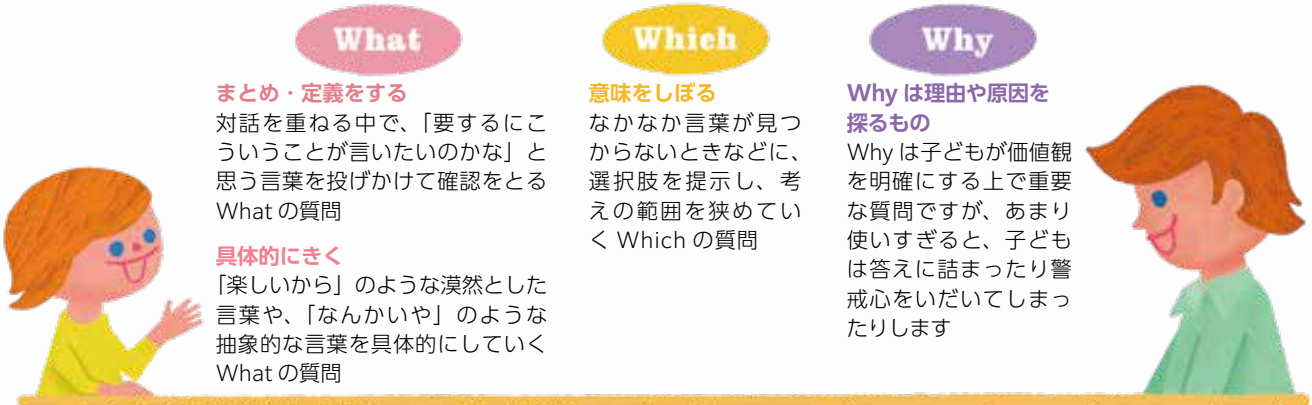
事態になる。子どものフィールドで「語り合い」を進め意見表明を支援するには、常に3つのW（What Which Why）で聞くということが必要になる。（三重県里親シンポジウム伊藤嘉余子さん講演資料より）

チャイルドラインの現場でも、図2の階段の「聴く」「訊く」を繰り返し、おとなの誘導ではないやりとりにより子ども自身が自分の思いや考えを深め、見つめていく。受け手はそのプロセスにつきあう。

一本の電話・チャットでの限界を感じることもあるが、こういった「ほんものの傾聴」に近づけていくため、チャイルドラインの受け手・支え手が、自分を見つめ、努力していく必要を改めて感じている。

.....子どものフィールドでかたりあいを進めるために.....

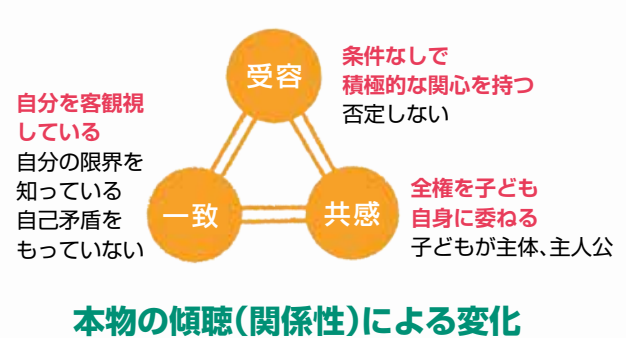
かたりあう 聴く + 訊く



自分が“自分”になるプロセス① 現在の子ども



自分が“自分”になるプロセス② 受け手に必要な姿勢



自分が“自分”になるプロセス③ 自分を見る作業



自分が“自分”になるプロセス④ これからの子ども

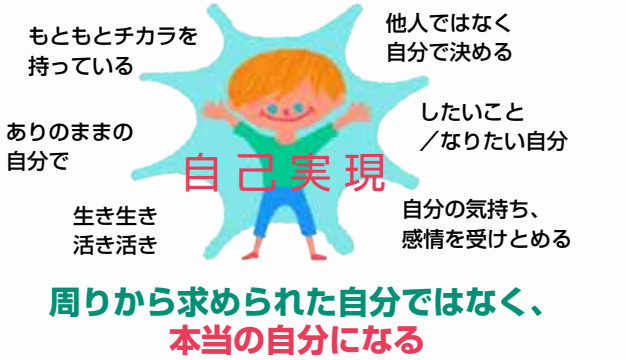


図1. 諸富祥彦『カール・ロジャーズ カウンセリングの原点』(角川選書 2019年)を参考に竹村が作成

図3. 三重県里親シンポジウム伊藤嘉余子さん講演資料を参考に竹村が作成

チャイルドラインからの提言「小中高生が 生きていこうと思える社会であるために」

子どもにきいた「子どもの自殺をなくすためにおとなができること」

2023年3月に厚生労働省より発表された2022年の自殺者数は21,881人で、2年ぶりに増加しましたが、なかでも児童・生徒（小中高校生）は過去最多の514人となりました。これを受けて、チャイルドラインが子どもやおとなに伝えたいことを緊急メッセージとしてホームページに掲載するとともに、子どもの自殺をなくすために「おとなは何ができるのか、何をしないといけないのか」について子どもから意見をもらうためにアンケートを実施しました。

「子どもの自殺をなくすためにおとなにできることがあると思いますか？」という問いに対して、回答数68件のうち、「ある」と「あるかもしれない」があわせて50件ありました。子どもの自殺をなくすためにおとなにできることについては、

- ・子どもの話をきく
- ・話を最後まで聴いて否定しない
- ・相談しやすい環境を作る
- ・相談場所を増やす
- ・居場所をつくる
- ・少しでも話す時間を取る

という回答がありました。

また自殺についての自由記述では、

- ・死にたいとは思うが怖いからできない
 - ・私が死んでも誰も悲しまない
 - ・今の苦しさから解放される手段だと思っている
 - ・自殺をなくすことは無理だと思う
 - ・なぜ自殺にまで追い込むようなことができるのか理解できない
- という回答がありました。

おとなができること① 子どもの話を否定せずに聴く

おとなは何ができるかという問いに対して、「子どもの話をきく」という回答が最も多く寄せられました。でも、ただ「きく」のではなく、「否定せずに」きいてほしい、と。

つまり、おとなは子どもの話を聴けていないということです。聴いているつもりのおとなは多いかもしれませんが、子どもは聴いてもらっているとは思っていない、子どもが望むような聴き方はできていない、ということだと思います。自殺をなくすためには、身近なおとなである保護者や先生が日頃から「子どもが話を聴いてもらえたと思えるように聴く」ことが何よりも大事で、それが大きな予防策ということです。

おとなができること② 相談しやすい環境をつくる

相談しやすい環境を作ることや相談場所を増やすことなどの回答も多くありました。相談しやすい環境作りというと、回答にもあるように「相談場所・機関を増やすこと」と、もう一つ「日頃から困ったことがあれば相談するという意識・相談できる関係性作り」があるように思います。

チャイルドラインには、「親には心配をかけたくないから相談したくない」「友だちに相談したら迷惑をかけてしまう」というような声が寄せられます。自分のつらい気持ちを身近な人に相談することは、子どもにとってハードルの高い行為のようです。そう考えると、子どもの話を『聴く』相談機関の選択肢が多いことは意味があるといえます。

自分の身近な人に相談できる方が具体的な解決につながります。けれど、日頃から気持ちを受けとめてもらっていなかったら相談はできないし、相談しようとも思いません。そして、自分一人で抱え込み、どうしようもなくなってしまうがちです。私たちおとなは、日頃から子どもの気持ちを受けとめられているでしょうか。忙しさや自分の価値観で、子どもの気持ちをないがしろにしてはいないでしょうか。相談しやすい環境といったときに、おとなの常日頃の姿勢が問われているように思います。

「自殺をなくしたい、死なないでほしい」おとなや社会はそう言います。その一方で、子どもを死にたいほどに追い詰めているのも身近なおとなや社会の仕組みです。その矛盾を子どもが感じているから、つらい状況の子どもにおとなの言葉はなかなか届かないのではないのでしょうか。

「話してほしい、ちゃんと聴くから」それでも、私たちは子どもにそう伝え続けたい。死にたいほどつらい状況になる前に、死んだ方が楽になれると思ってしまう前に、誰かに話したら状況は変わっていくかもしれません。そして同時に、「子どもが話を聴いてもらえたと思えるように聴く」ことのできるおとなが増えるように活動していかなければならないと強く思います。

子どもとおとなに向けて 2023年3月 緊急メッセージを発信しました

子どもへ

厚生労働省より2022年の自殺者数が発表され、小中高校生は過去最多となりました。チャイルドラインは、子どもが生きやすい社会をめざして活動していますが、本当に生きにくい社会であることをあらためて強く感じました。

みなさんに居場所はありますか？
実際に自分が居るリアルな空間でなくても、ちょっと何かあったときに話を聴いてくれる人や熱中できる趣味、逃げ場所でもいい。ぜひ、そんな場所を持っておいてほしいと思います。
今死にたいほどつらいことがあったとしても、生きていてほしい。ひとまずもうしばらく生きていようと思って生きてほしい。そうしたら、ちょっと違うものが見えたり、気づいたりするかもしれないから。わたしたちはそう願っています。

そして今、おとなは何をしないといけないのか、何ができるのか、おとなが考えなければならないのはもちろんですが、子どもであるみなさんと一緒に考えたいと思っています。子どもが「生きていよう」と思える社会にするために、おとなは何をしたらいいか、みなさんの意見を聴かせてください。

おとなへ

小中高生が生きていこうと思える社会であるために

厚生労働省より2022年の自殺者数が発表され、小中高校生は過去最多となりました。
ここ数年おとなの数は減少傾向にありましたが、その間も子どもはわずかに増加傾向にありました。

普段から子どもの様子を受けとめる

おとなはすぐにどうすれば防げるのか原因を突き止め、具体策を考えようとする。しかしながら、子どもの困りは複合的で一つの要因だけではありません。さまざまな要因が重なり追い詰められていくのです。困りは日常的にあります。まずは子どもとの関わりを思い返してみてください。普段の子どもの様子を受けとめていてこそ変化が見えます。子どもを受けとめるためには、自分の経験から子どもに対してアドバイスや苦言を言いたくなる、そんな気持ちを抑えて、まず「子どもの気持ちや言いたいことを否定せずに最後まで聴くこと」が大切です。そうすることが子どもの存在を認めているメッセージとなり、その積み重ねがおとなへの信頼になり、自分は生きていていい存在だと実感できるのです。

子どもに居場所があるか

子どもはおとなより狭い世界で生きています。そんな狭い世界のなかで居場所を失うことは逃げ場を失うことになります。物理的な居場所、精神的な居場所がひとつでもあれば生きることができるとは限りません。そして、子どもから信頼され、子どもの居場所のひとつとなるおとなが一人でも多くいてほしいし、わたしたちもそうなりたいと思っています。

子どもの気持ちに目向け、耳を傾ける

子どもがつらい気持ちを一人で抱えて悲しい選択をせず、「生きていこう」と思える世の中になるためには、おとなや社会が子どもの気持ちに目向け、耳を傾けられるようになることが必要です。

子どもの権利条約にもありますが、子どもの命を守るのはおとなの義務です。「おとなに守られている」と子どもが安心して成長していける社会を一緒に作っていきましょう。

2023年3月

【アンケート概要】（子どもへの回答編 <https://childline.or.jp/enquete>）

■アンケート期間：2023年3月23日～31日 ■回答数：68件



子どもがひとりも自殺に追い込まれないために

ー データからの考察 ー

子どもの自殺が近年増加傾向にあります。厚生労働省の自殺対策白書によると、高校生までの子どもの自殺者数は過去最高と公表されました。そもそも、子どもたちの状況には、コロナ以前から、虐待、いじめ、不登校、孤独・孤立などの“生きづらさ”が存在していました。それがコロナ禍によってより顕在化・可視化されてきたということが考えられます。

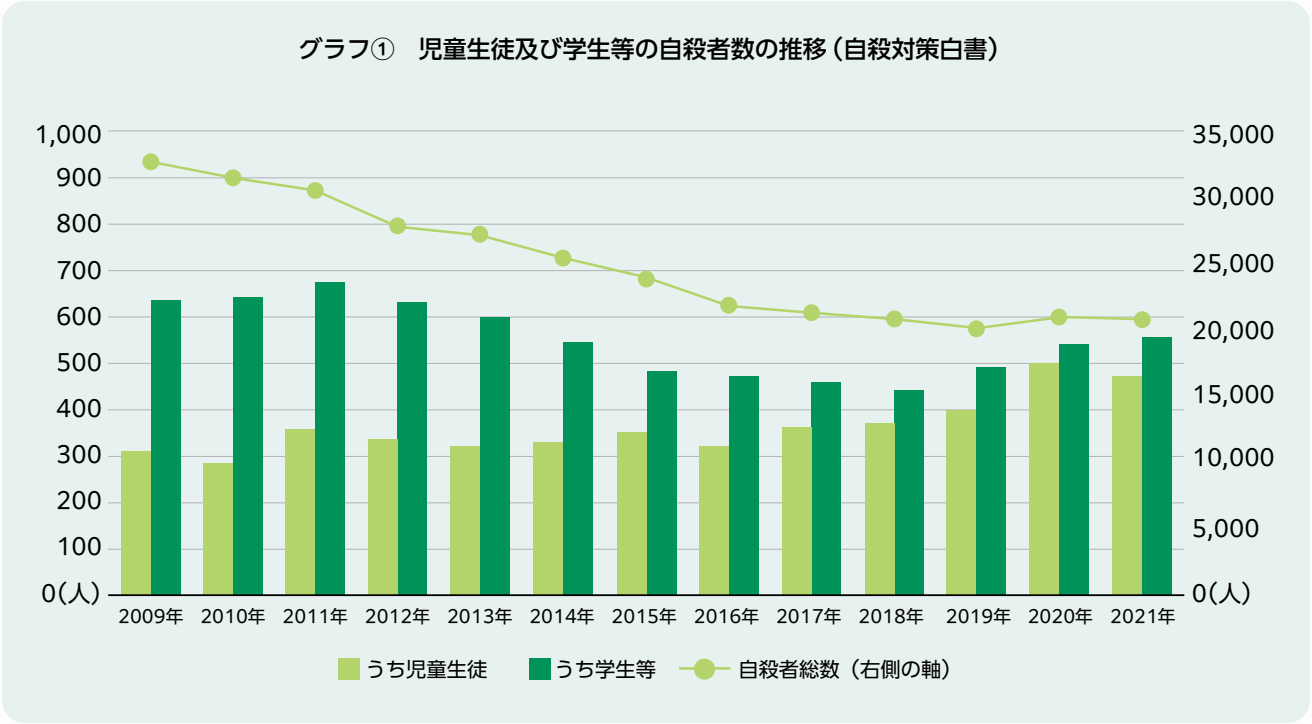
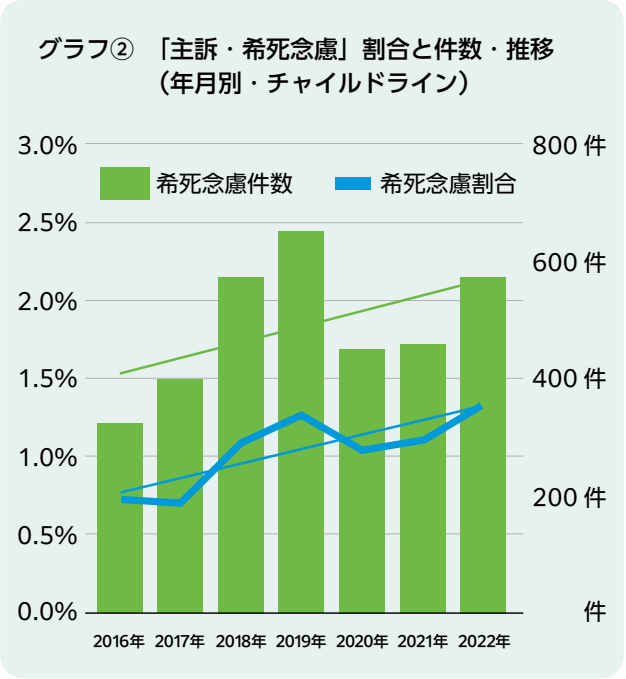
この項目では、「子どもの自殺」をテーマにして、チャイルドラインの集計データと自殺対策白書を照らしつつ、ひとりも自殺に追い込まれることのない環境をつくるには何が必要なのか、ヒントを探り、考察します。

1. 子どもたちの自殺・希死念慮の増加傾向

厚生労働省が発行する「自殺対策白書」によると、全世代の自殺者数は減少し、下げ止まり傾向となっていますが、グラフ①の棒グラフにある児童生徒の自殺は増加傾向であることがわかっています。特に、コロナ禍以前から増加傾向にあったことにも注目しておく必要があります。

では、チャイルドラインの電話から見える状況はどうか。直接の「自殺者」に関する内容・データは得ることはできませんが、会話成立した中の「主訴・希死念慮」の割合と件数はわかりますので、グラフ②に示しました(2016年度から)。新型コロナ蔓延による波はあるものの、全体としては「希死念慮」は増加傾向にあります。

自殺防止対策を考えていく上では、自殺者数のみに焦点を当てるだけでなく、自殺に追い込まれる前の対策を進めることが重要であることが指摘されています。ですから、このような「希死念慮」を抱えている子どもたちの傾向を見ていくことは重要になってきます。そして、子どもたちの自殺者も自殺念慮を持つ傾向も、「増加傾向」であるという共通点を深く受けとめなければなりません。



2. 夏に上がる、自殺や希死念慮の月別傾向

次に「月別傾向」をみてみました。チャイルドラインにおいては8月・9月に「希死念慮」割合が高くなっています(グラフ③)。また自殺対策白書では8月・9月などに児童生徒の「自殺者数」の増加が示されています(グラフ④)。ただ、自殺対策白書は「自殺者数」なのに対して、チャイルドラインの電話データに関しては「希死念慮割合」なので、単純な比較はできません。

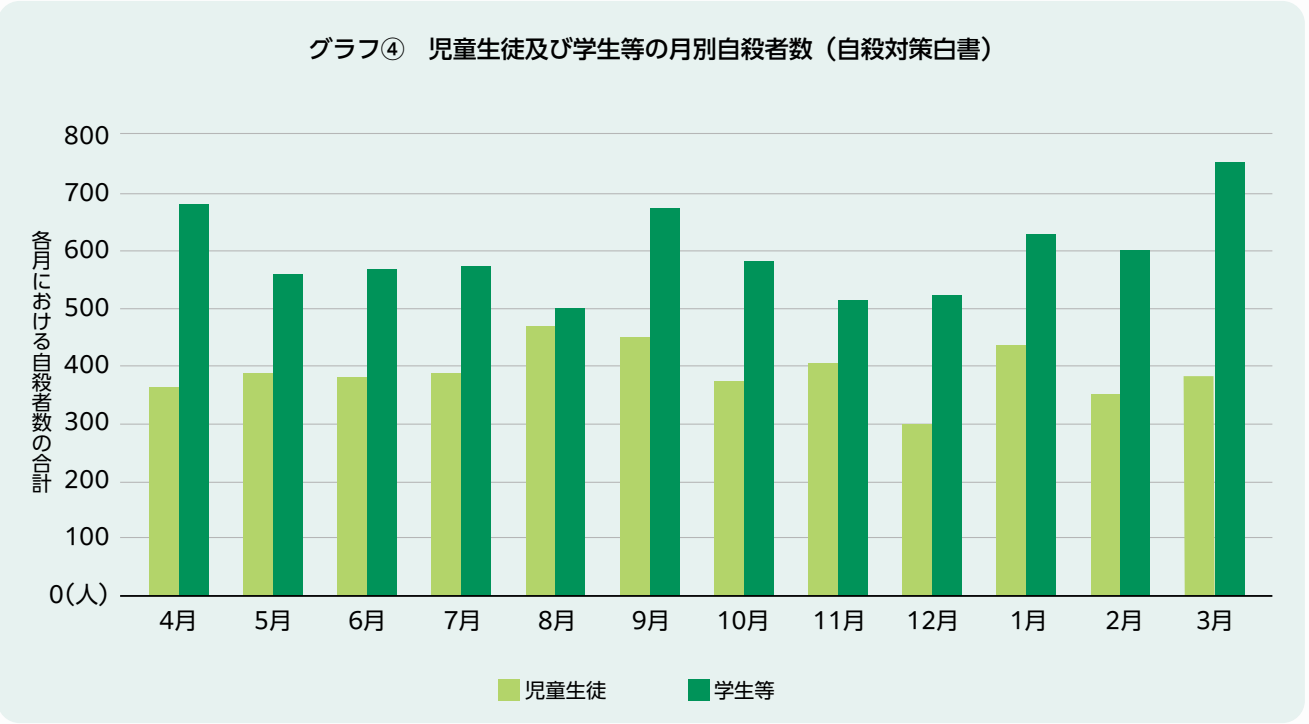
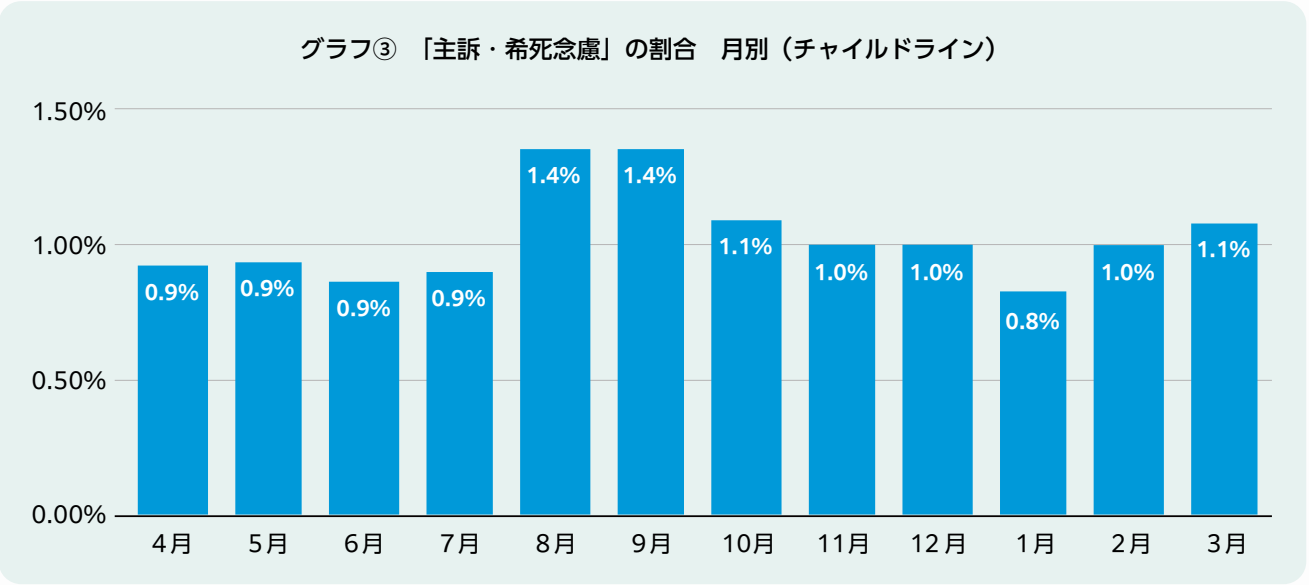
とはいえ、自殺リスクのある時期を考えると、似た時期に増加する傾向にもあるので、関連がないとは否定しきれないので、さらなる分析が必要です。

また、チャイルドラインに寄せられる声・事例からは、

8月上旬あたりから、子どもたちのストレスが高まっている傾向にあることが共有されています。これまでの自殺対策を考えると、「2学期の開始前後」に焦点が当たりがちでした。しかしむしろ、この時期より前から、「自殺防止の対応強化」のアクションが必要で、さらに、他の時期にも自殺や希死念慮が減っていないことから、一年を通した対応強化も必要だと考えられます。

3. 自殺や希死念慮、性別による違い

自殺対策白書の中高生の自殺者数は「男子」が多く、またこの2年は「女子」が増加傾向です。



一方チャイルドラインでは、希死念慮について話す中高生は「女子」が多い傾向でした。(グラフ⑤と⑥・ここでは高校生年齢のみ) チャイルドラインの女性のアクセス割合が高いのは、女性自身が悩みを抱え込みすぎず言語化し、他者へ打ち明けやすい等の状況・要因があり、結果的にアクセスしやすい環境にあることも考えられます。男性はその逆で、悩みを抱えていても言語化しにくいこと、深刻な悩みや不安ほど、他者に打ち明けにくい状況・要因があること。そして、結果的にストレスや孤独・孤立を抱えやすい環境におかれている可能性があり、それらが自殺に追い込まれる背景・要因になっていることも、ひとつの仮説として考えられます。

また、いじめをテーマに限定した滋賀県大津市の意識調査では、男子がだれにも相談しなかった理由として「ひどくなるかもしれない・解決しない・知られたくない・心配や迷惑をかけたくない・相談するほどでもなかった」といった項目が挙げられています。(*)

ただ、これらに関して明確な調査は少ないと思われることから、なぜ、性別の違いがあるのか、LGBTQ への視点や社会的背景も含め、今後分析が進められる必要があると考えられます。

4. 「気分の落ち込み」の増加傾向

最後に、気になるデータを紹介します。「自分・心に関すること」の詳細項目としてある「気分の落ち込み」項目を男女別に、年度推移として示したグラフです(グラフ⑦⑧)。

「気分の落ち込み」は全体に女子の方が高く、さらに男女とも高校年齢のみ、2016年～2020年度まで(女子は～21年度)割合が高くなる傾向にありました。

これはコロナ禍以前から見えている傾向ですが、さらに気分の落ち込みを訴える子どもの背景や希死念慮、自殺との関係性などは今後、考察していく必要があります。

また加えて、チャイルドラインでつながる子どもの最近

の傾向で気になるのは、精神科の受診、投薬治療、精神科等での入院経験のある子どもたちです。これらの状況にあると思われる話を聴く回数が以前よりも目立ってきている印象です(これは厚生労働省の「患者調査」でも20歳未満の精神疾患の入院患者が増加している数字が示されています)。「気分の落ち込み」から見えるデータは、そういったメンタルヘルスのリスクが増加していることを示すデータとしても、とらえていく必要がありそうです。

5. まとめにかえて

今回紹介したデータから見えることは、チャイルドラインの電話での集計データにおいて、①厚生労働省の自殺対策白書が示すデータと、関連した部分があるのではないかと、②自殺者数や希死念慮件数は夏の時期に高まるからこそ、それより前の呼びかけや対応、また一年を通じたアクションが求められること、③自殺対策白書による子どもの自殺者数は「男子」が多く、一方でチャイルドラインでつながる電話の希死念慮は「女子」が多い傾向を踏まえ、さらなる要因分析と対応の必要があること、④自殺・希死念慮の手前にある状態としての、「気分の落ち込み」など、日常的な「こころのしんどさ」に焦点を当てた議論も必要なこと、などが挙げられます。

なお冒頭にも挙げたように、厚生労働省「自殺対策白書」とチャイルドラインのデータは、単純な比較ができるものではありません。しかし、それぞれの示すデータは、近年、増加などの傾向が共通しています。このことが今後の子どもの自殺対策のひとつの視点として議論される必要があ

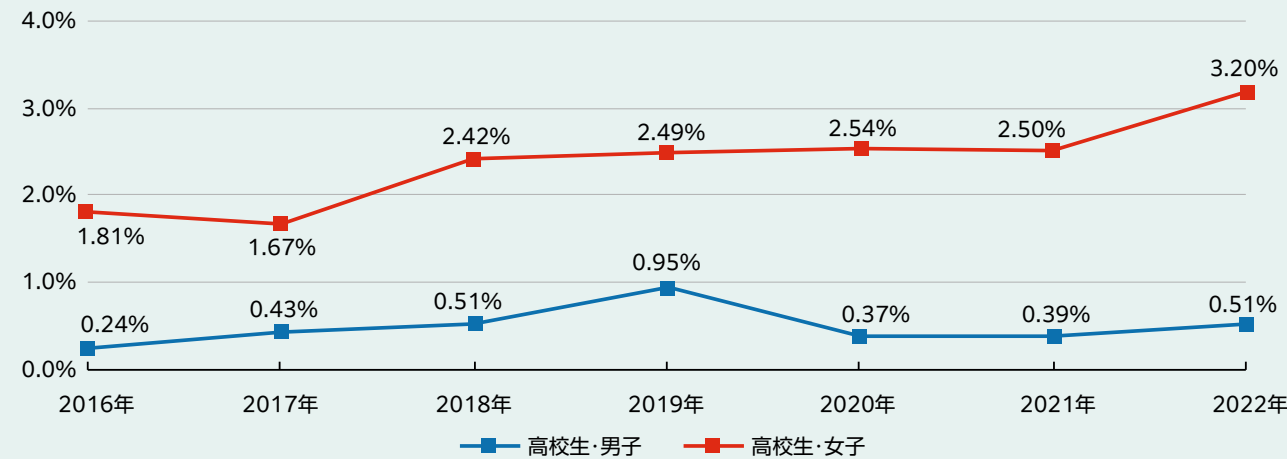
るように思われます。

また関連して、チャイルドラインで受けとめてきた声から感じられることは、子どもたちの日常生活で、子どもが安心して「今、へこんでいる」「うまくいかないことがあるんだ…」などのささいな気持ちを出していく場や機会が少なくなっている点です。加えて、親などによる「子育てのあるべき姿」といった価値観が強くなることで、子どもにネガティブな影響を及ぼしていることも気になる点です。これらは結果的に子どもを肯定する行動につながらず、むしろ否定しているように受けとられる可能性も考えられます。子ども自身が「将来に希望が持てない」ことの背景には、これらの状況も関係しているように思えます。

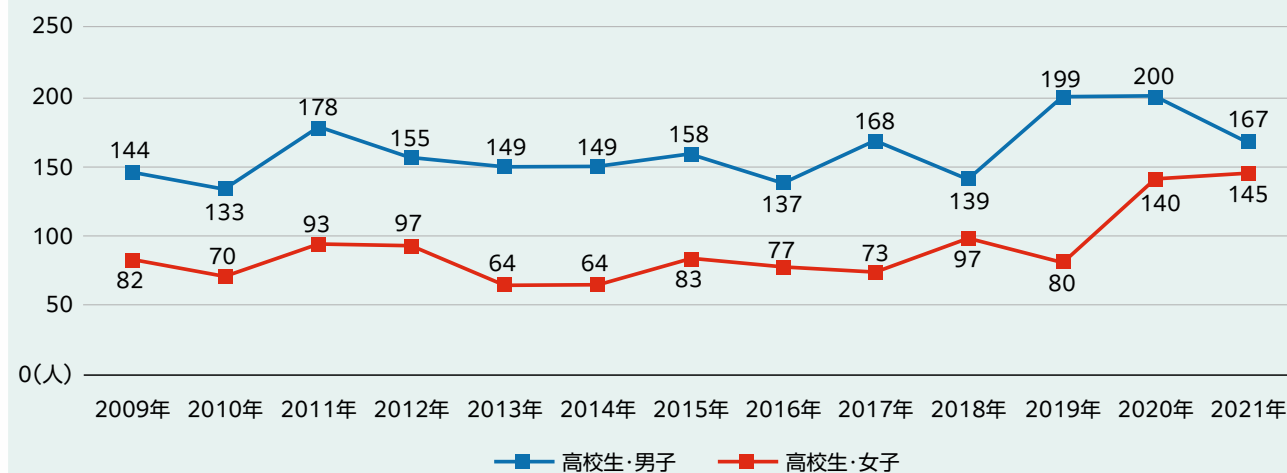
逆に子ども自身が望んでいることはなんでしょうか。それは、①日常的にちいさな“思い”を出せる場や時間、空間、人などの機会をもっと増やしてほしいこと、②みんなと一緒になければいけない・「普通」にしなければならないという価値観からの解放、そしてそもそも、③「今、毎日生活しているだけでいいんだ・すごいんだ」ということを実感するための関係性や居場所を求めている、といったことだと実感しています。

チャイルドラインは、「子どものこころの居場所」として20年以上にわたり活動を進めてきましたが、現状に向き合い、活動を積み重ねるほど、子どもの「存在の肯定の枯渇」を強く感じざるを得ません。社会全体が子どもたちの存在を肯定する環境を増やしていくことこそが、喫緊である子どもの自殺対策の大事な基盤となるのではないのでしょうか。

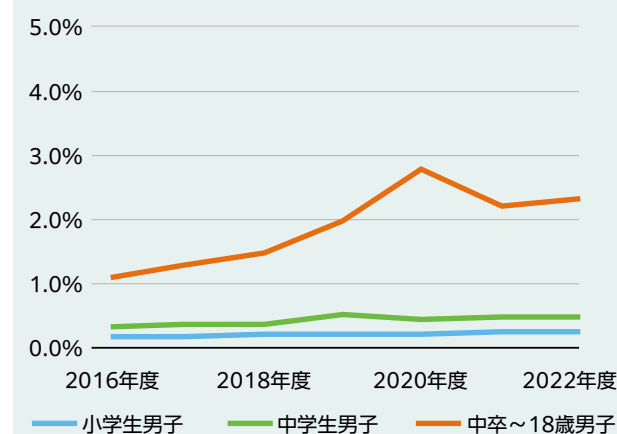
グラフ⑤ 「主訴・希死念慮」の高校生男女割合推移(チャイルドライン)



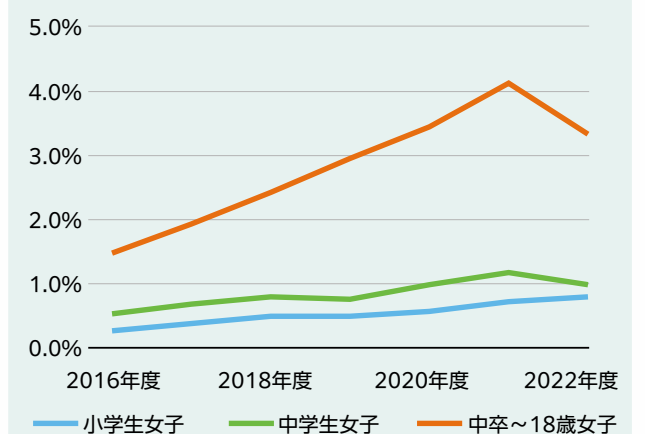
グラフ⑥ 【高校生】生徒の男女別自殺者数推移(自殺対策白書)



グラフ⑦ 「心に関すること・気分の落ち込み」男子・年齢別(チャイルドライン)



グラフ⑧ 「心に関すること・気分の落ち込み」女子・年齢別(チャイルドライン)



【参考資料】
 「チャイルドラインデータベース」2016年度～2022年度(電話のみ) チャイルドライン支援センター 【グラフ表記=(チャイルドライン)】
 「令和4年版 自殺対策白書」(第2章 自殺対策の基本的な枠組みと新型コロナウイルス感染症の感染拡大下の自殺の動向等の分析) 厚生労働省 【グラフ表記=(自殺対策白書)】
 (*) 「令和元年度 大津市いじめの防止に関する行動計画モニタリングに係るアンケート調査結果」 2020滋賀県大津市

チャイルド ラインとは

チャイルドラインは子ども権利条約の理念に基づき、子どもの「声」を受けとめその「声」を社会に発信し、子どもの生きやすい社会をめざしています

子どもの「声」を受けとめる

チャイルドラインは子どもの「声」を聴き、その気持ちに寄り添います。子どもは、本気で自分の話を聴いてもらえた、受けとめてもらえたと感じることができれば、自分自身でその課題と向き合い、乗り越えていく力を持っています。そう信じ、ありのままの子どもを丸ごと応援するのが、チャイルドラインです。お説教抜き、押しつけ抜きで子どもの「声」に耳を傾け、どんなことも子どもと一緒に考えます。

チャイルドラインがめざすのは、「子どもの権利条約」の理念に基づく「子どもの最善の利益」の実現です。子どもは単に守られるだけの存在ではなく、おとなと同様に権利を持ち、社会をともに創っていくパートナーです。

子どもが安心して話せる場となるために、子どもたちに 4 つの約束をしています。

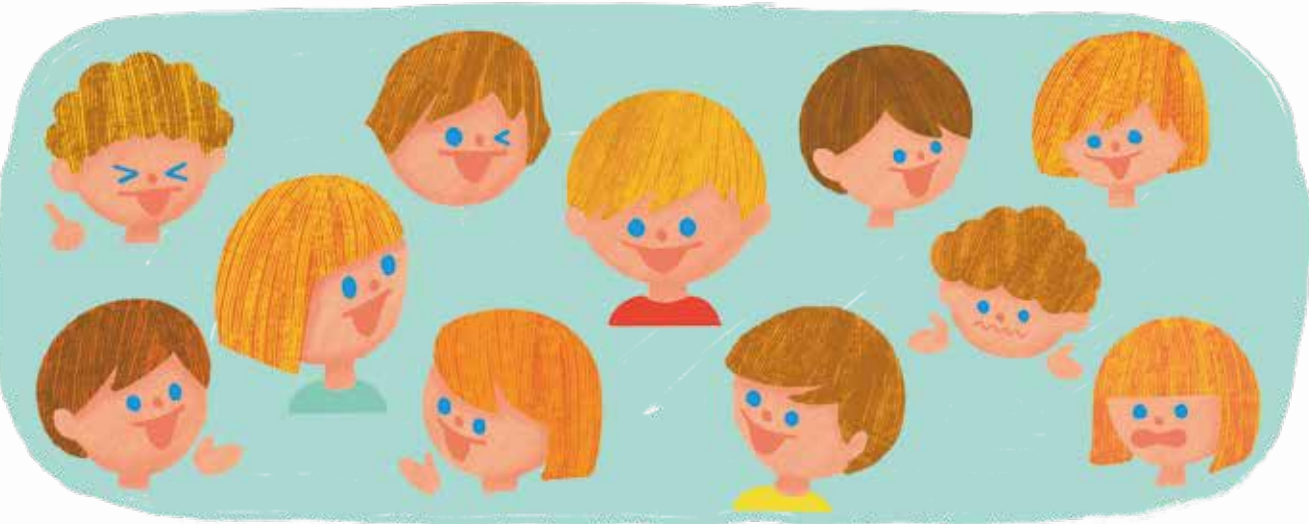
- ヒミツはまもるよ
- どんなことも、いっしょに考える
- 名まえは言わなくていい
- 切りたいときには切っていい

チャイルドラインの主演は子どもです。子どもをひとりの人間として、その主体性を尊重します。主導権は子どもにあり、子どもがやめたくなったらいつでも話をやめることができます。

子どもの生きやすい社会をめざす

チャイルドラインは、子どもの「声」を聴いたおとなの責任として、聴いたままにするのではなく、そこから見える社会課題や子どもたちの状況を広く発信していくことで、子どもが生きやすい社会をつくっていきたいと考えています。そのため、子どもたちの声をデータとしてまとめ、分析し、社会に発信することや、講演会などで子どもの話を聴くことの大切さを社会に啓発する活動を重ねています。また、行政・企業・他団体と連携して「子どもの最善の利益」が保障される社会をつくるために何が必要かを話し合い、協働していくことにも取り組んでいます。

チャイルドラインの活動は、関わるおとなも人として成長する場となっています。そして、地域の「おとな」として子どもや社会と向き合っていくことも、関わるすべての人の使命であると考えています。



日本のチャイルドラインのあゆみ

- 1989 年 国連「子どもの権利条約」採択
- 1994 年 日本において同条約批准
- 1997 年 世田谷区の市民団体が当時の文部大臣らと英国のチャイルドライン UK を視察
超党派による「チャイルドライン設立推進議員連盟」が発足（現チャイルドライン支援議員連盟）
- 1998 年 日本で初の「せたがやチャイルドライン」開設
- 1999 年 チャイルドライン支援センター設立
- 2000 年 全国「こどもの日チャイルドライン」実施
- 2003 年 地域別統一フリーダイヤルキャンペーン実施
- 2007 年 データベース運用開始
- 2009 年 全国統一番号フリーダイヤル運用開始
- 2016 年 オンラインチャット試行開始
- 2018 年 フリーダイヤル毎日実施となる
- 2019 年 4 月オンラインチャット開始
- 2020 年 6 月「つぶやく」を設置
- 2022 年 11 月ネットでんわ試行開始

世界のチャイルド・ヘルプライン CHI などとの交流

1970 年代に北欧で始まった子どものためのホットラインが世界各地に広がり、1986 年、虐待が問題となっていた英国でチャイルドライン UK が開設。世界をつなぐチャイルド・ヘルプライン・インターナショナル（略称：CHI）はオランダに本部を置き、現在 135 カ国 159 団体が活動（CHI の HP より）。国ごとのインフラの状況により活動内容は若干異なる。日本のチャイルドラインは、チャイルドライン UK をモデルとして始まり、傾聴に重きを置いた「子どものこころの居場所」としての存在となっている。
チャイルドライン支援センターでは CHI の会議に参加、開催するほか、関係者を招いた研修の実施、CHI へのデータ提供などを行っている。

子どもの「聴かれる権利」を保障するチャイルドライン

1989 年に国連で採択された「子どもの権利条約」は、子どもを「おとなと対等な存在」として認め、「権利の主体」として人権が保障されることを定めた国際的な条約であり、日本は 1994 年に批准しました。子どもがどんな権利をもっているのか具体的に記され、2022 年に成立した「こども基本法」はこの条約を基本理念としています。

子どもの権利条約では 4 つの基本原則が定められています。

- 命を守られ成長できること（第 6 条）
- 子どもにとって最もよいこと（第 3 条）
- 意見を表明し参加できること（第 12 条）
- 差別のないこと（第 2 条）

このうち、チャイルドラインが活動を通して特に大事にしたいと考えているのが、第 12 条「意見を表明する権利」の中の「聴かれる権利」です。子どもの意見表明は、それを受けとめる「聴き手」がいなければ成り立ちません。子どもには「聴き手」が必要なのです。子どもにとって、「聴いてもらう」「聴かれる」ことが確約されて初めて、意見表明が意味を持つのです。

「子どもの声を聴き、寄り添う」チャイルドラインは、子どもの「聴かれる権利」を保障する役割を担っています。

子どもの「声」を受けとめる

※電話・チャット・「つぶやく」に寄せられた声をプライバシーに配慮し再構成しています。

子どもの「声」

家族で

母親からお前には悪魔がついてる、恐ろしい、産まなきゃよかったと言われた。勝手に産んだのはそっちでしょ、なのに自分勝手だよ。私が泣いてると気持ち悪いって言ったよね、真顔のときは怖いって言ったよね。こんな家出ていきたい。

死にたいとか、いろいろ書いたノートをお母さんに見られた。「これは何」とか震災で亡くなった人もいるのにどうのこうのとか、私の気もちは聞かないで2時間以上もたらたら言われて。そもそもなんで人の部屋に勝手に入ってノート勝手に見て、平気での？子どもにはプライバシーとかないの？誰にも迷惑かけたくなかったからノートに収めてたのに。好き勝手言わないでよ。どうせ何もわかんないくせに。

お母さんが妊娠したんです。うちは離婚してるからお父さんはいないんだけど、赤ちゃんができたから結婚するんだって。そんなの聞いてないし…ですよ。その人にまだ会ったことないし。

親はうつ病で、お金がないので親戚のおばさんに毎月もらいに行きます。親が「会いたくないから」って、私に取りに行かせる。私だって会いたくないけど、家出するにもお金がいるから、パパ活でもしようか。1回やったし、もう1回くらい、いいかな。

自分のこと

自分に甘すぎる自分が嫌い。ダイエットだって続かないし、勉強だってサボってばかりで親不孝すぎる。こんな自分が生きてるくらいなら虐待で死んじゃった子の命と引き換えにしてほしい。

家でひとりで過食してしまった。クッキー、ドーナツ、チョコレート、イチゴアイスを食べた。計算したら4,000キロカロリー超えてた。1ヵ月後にはダンスの発表会があるから、体を引き締めないといけないのに。バカだ。

学校で天然ぶったり、愛されキャラは偽物の自分。サイコパスで腹黒の本当の自分をみんなに見せたら怖がられると思う。自分がどうしてこうなったのか、わかってる。人生やり直してやさしい人間に生まれ変わりたい。

学校で

いじめられてる子がいる。かわいそうだと思うけど、その子の味方になると菌あつかいされる。

人間関係ってどうしてこんなにしんどいんですか？教室のみんなが話してる声が全部私の悪口のように聞こえます。

学校って集団行動ばかりで、みんなの本当の気持ちや個性がどんどんつぶされていく。もはや刑務所だよな。

セクシャリティ

僕は体は女だけど性自認は中性です。前にクラスのアンケートで、性別欄が女子、男子、その他があって、選択しようか迷ったけど、「その他って何？オカマとか？ww」ってだれかが言ったので、そういう風に言われるんだと思って怖いです。カミングアウトしている友だちはいるけど、親にはどういう風に言えばいいんだろう。

だれもないときにお姉ちゃんのスカートをはいてみたの。保育園のときに友だちとふざけてはいたときのことが忘れられなくて、男だからずうっと封印してたんだけど。はいてみたら、すごくいい感じで、なんだかうれしくて電話しました。

イヤだ 苦しいよ

体育って何のためにあるのかわからない。私は跳び箱が怖くてできません。ほかの子はみんなできるけど、自分は本当に怖いんです。体育がある日はイヤだ。不登校になりそう。

宿題が明日までなんですけど、まだできてないんです。お兄ちゃんに言っても自分でやらなきゃダメだろうって。お父さんもおなじこと言ってる。どうしよう。勉強きらい。

アイドルのTと恋人になりたい。Tのことが好きな私より可愛い子が沢山いるけど、Tとお似合いなのは私って思っちゃう。Tが私の心を奪ったんだから責任とってほしい。苦しいよ。

ねえ聞いて

BLって知ってますか？ボーイズラブのこと。ネット友がBLにハマってて、その話ばかりするの。YouTubeもいっぱいあるの。だけど私はハマれないんですよ…。

この前まで養護施設にいて、しょっちゅう家出してた。朝までにはたいてい施設に帰るんだけど、一度補導されちゃったの。だけどその時の女の警官の人がすごいいい人で、ああいう人になりたいと思ったの。だからがんばって勉強中です。

今日も学校に行けなかった。父親に逃げるのはずるいよって言われた。罪悪感が襲ってくる。だけど学校に行きたくない理由も分からない。なんかどうでもよくなってきた。YouTubeの“ニンジーン”の替え歌を聴いて落ち着く。

この社会で

友だちのおばあちゃんがコロナで死んじゃったんです。ぼくにも優しくしてくれたんだけど、コロナにかかって、病院に入ったら家族のだれも会いに行けなくて。そのまま死んでお葬式もなかったんです。さびしいだろうな。

コンビニでおいじさんが万引きしてるところを見ちゃった。はじめよくわからなかったんだけど、あとで考えたらあれは万引きだったと思う。お店の人に言った方がいいですか。それとも警察に届けるの？

戦争、ずーっとやってるんだよね。ママがテレビのニュース見て泣いてるから、私も泣いちゃったの。怖いよ。どうして戦争するの？

意見

- チャットのできる時間や、日を増やしてほしい。部活の時間とかぶるしバイトもあるから、高校生には無理です。
- 午後4時からだと家の人に聞かれちゃうから午前9時からやってほしいです。
午前中に電話かけたら出なくてどうしたらいいかわからないので助けてください。
- ほとんどの人はよく話を聞いてくれて、心が落ち着くのですが、今日は「他の相談窓口に相談した方がいい」と言われてしまって気持ちがへこんでいます。
- “みんなのあるある”がすき。
- チャットがなかなか、つながりません。チャットの人を増やしてほしいです。

感想

- みんなのつぶやきを見て、自分以外にもおんなじことで悩んでる子がいっぱいいるんだなって思えてホッとしました。
- 電話で話しているうちに自分でもわからなかった心の中の荷物に気がつきました。チャイルドラインがあって心の荷物置き場になるから安心です。
- 自分のことなんか誰かに話したら迷惑だと、ずっと思っていたけど、言っていいたって思えて本当にうれしかったです。

質問

- 電話ってどういう人が出てくれるのですか？
- “つぶやく”を読んだ人から返信ができるようにできませんか？私はその方が励みになります。
- なんで“チャイルドライン”を作ったんですか？
- 学校のタブレットでもできますか？
- 親がいないとき許可なしで勝手にチャイルドラインにかけて大丈夫ですか？

※チャイルドラインのウェブサイトを通じて寄せられたもの(公表することを明記して募集)からの抜粋です。

受けとめた「声」のデータ

実施概要 2022 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日 厚生労働省 令和 4 年度自殺防止対策事業

電話（統一番号フリーダイヤル）

電話番号：0120-99-7777（全国共通 / 携帯電話、公衆電話も通話無料）

実施日時：毎日 16 時～ 21 時（年末年始は休止） ※一部地域では時間延長して実施

オンラインチャット

チャイルドライン支援センターウェブサイト上に専用ページ設置 <https://childline.or.jp/chat>

実施日時：木曜日、金曜日、土曜日、第 1・第 3 水曜日 16 時～ 21 時

〈2022 チャイルドライン全国キャンペーン 「聴かせてほしい あなたの声」〉

実施期間：2022 年 8 月 22 日～ 9 月 4 日

電話：毎日 16 時～ 21 時（一部地域では、時間延長して実施）

オンラインチャット：毎日 16 時～ 21 時

つぶやく

チャイルドライン支援センターウェブサイト上に専用ページ設置 <https://childline.or.jp>

24 時間 365 日書き込み可能

トラヒックデータ

（集計データの概要・特徴）

・集計日 2023年4月26日

・電話はNTTコミュニケーションズのトラヒック調査ツールより、オンラインチャットはAI.BISのシステム上のツールより、取得し分析したものです。

・同じ人が複数回かけてきている場合があるので、「着信数・書き込み件数＝利用人数」ではありません。

（注）データ集計は自動計算で、各データの小数点をまとめています。そのため、同じ項目のデータでも集計の仕方によって違いが生じている場合があります。違いがある場合は、「利用状況」のデータを利用してください。

利用状況

電話

2021 年度に比べて、着信率が上昇しました。総実施時間の増加から、受信体制はコロナ禍前に戻っています。一方で、平均通話時間が減少しており、子どもの話す時間は短くなっています。

単位：特記以外は「件数」				
項目	2022年度	1日あたり(開設359日)平均	2021年度比	2021年度
発信数	410,720	1,144	-46,994	457,714
着信数	184,627	514	+21,695	162,932
うち固定	25,286	70	-7,194	32,480
うち公衆	3,497	10	+846	2,651
うち携帯	155,844	434	+28,043	127,801
着信率(会話できた率)	45.0%		+9.4ポイント	35.6%
かけた人数(人)※	72,321	201	-	-
つながった率※	63.4%		-	-
平均通話時間	4分47秒		-49秒	5分36秒
10分以上の通話	27,877	78	-674	28,551
着信数比	15.1%		-2.4ポイント	17.5%
総通話時間(時間)	14,717	41	-500	15,217
総実施時間(時間)	36,083	101	+1,879	34,204
稼働率	40.8%		-3.7ポイント	44.5%
時間着信数／回線	5.1		+0.3	4.8

※今回から「かけた人数」の集計方法が変更されたため、2021年度以前データと比較できないため、記載を省略しました。また「つながった率」も併せて計算式が変更となっています。

※「つながった率」とは同日中に電話をかけた人数のうち、何人着信できたかを表しています。 ※「10分以上の通話」は平均通話時間以上で、一定会話が深められる時間として設定しました。

※「総通話時間」着信した電話の通話時間の合計。 ※「稼働率」総実施時間のうち、通話していた時間の比率を表しています。

※「時間着信数」1回線あたりの1時間に着信した件数を表しています。

オンラインチャット

2021 年度と比べて、開設日、実施団体が増加したため、総実施時間が大きく増えました。それに伴い、対応率も上昇しています。

単位：特記以外は「件数」				
項目	2022年度	1日あたり(開設186日)平均	2021年度比	2021年度
訪問件数	133,447	717	+11,733	121,714
書き込み件数	32,327	174	+5,054	27,273
対応件数	11,817	64	+3,105	8,712
うちスマホ・タブレット	7,318	39	+1,731	5,587
うちPC	4,499	24	+1,374	3,125
対応率(会話できた率)	36.6%		+4.7ポイント	31.9%
ユニーク訪問人数(のべ)	80,123	431	+4,392	75,731
書き込み人数(のべ)	32,282	174	+5,033	27,249
つながった率	40.3%		+4.3ポイント	36.0%
平均対応時間(1対応件数あたり)	41分49秒		+48秒	41分1秒
40分以上のチャット	5,250	28	+1,659	3,591
対応件数比	44.4%		+3.2ポイント	41.2%
総対応時間(時間)	8,236	44	+2,281	5,955
総実施時間(時間)	7,102	38	+1,929	5,173
稼働率	116.0%		+0.9ポイント	115.1%
時間対応数／1回線	1.7		0.0件	1.7

※「訪問件数」チャットシステムに入室した延べ人数で、電話における発信数にあたります。

※「書き込み件数」対応した・しない、に関わらず、子どもが何らかの書き込みをした数(チャット特有の数値)。

※「対応件数」受け手が何らかの書き込みをした数(ガイダンスは除く)。 ※「対応率」書き込み件数に対して対応した比率。

※「ユニーク訪問人数」実際にチャットシステムに訪問した人数(IPアドレスの重複を除いていますが、月が替わると1カウントとして計上されます)

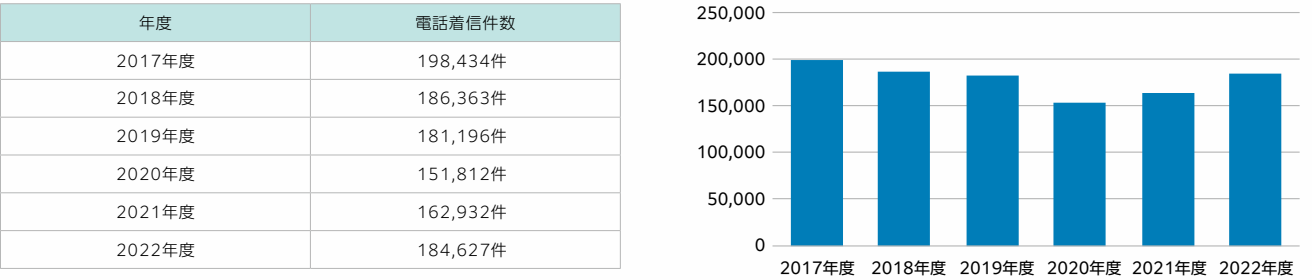
※「40分以上のチャット」平均対応時間以上で、ある程度会話が深められると考えた時間。

※稼働率＝「のべ実施時間」あたりの「総対応時間」の比率。(稼働率が100%超について：「のべ実施時間」は、実施予定表(オンラインチャットスプレッドシート)から積算されており、そこに記載された実施時間・パソコン台数等が実際の実施と異なっていること、対応できた人の対話時間以外の時間も含まれていることが原因)

アクセス件数年度別推移

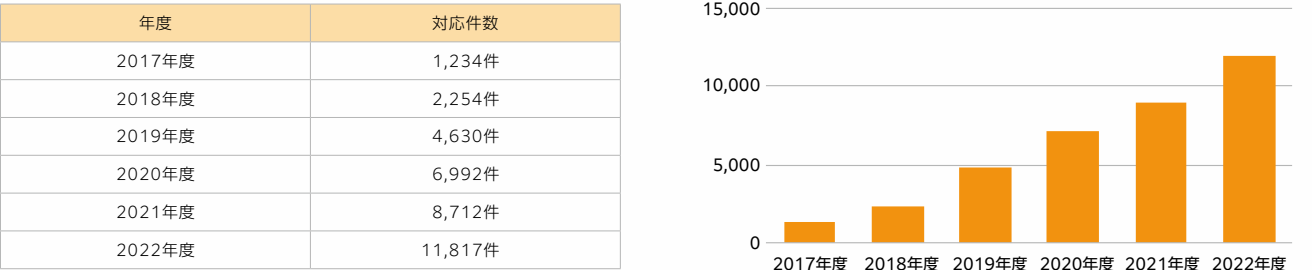
電話

着信数は増加しました。この要因として 2020 年度、2021 年度に COVID-19 の影響を受け縮小していた受信体制が、コロナ禍前に戻ったこと、平均通話時間が短くなっていることなどが考えられます。



オンラインチャット

実施団体数・開設日の増加により、対応件数は年々増加しています。対応率も上昇していますが、子どもからのニーズにはまだまだ追いつけていません。



データベース

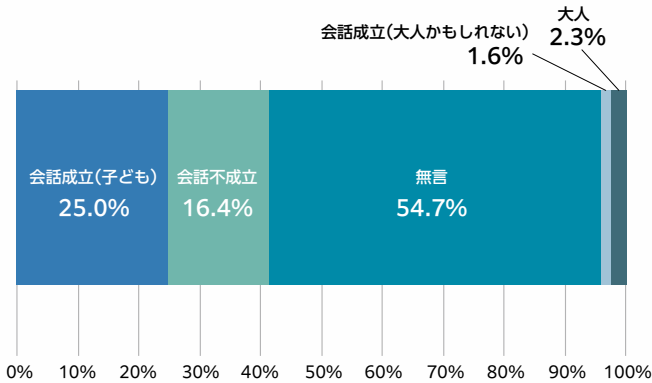
- 〈集計データの概要・特徴〉
- ・集計日 2023 年 4 月 26 日
 - ・子どもの話を聴く「受け手（子どもからの電話・チャットを直接受ける人）」が感じた子どもの状況を、子どもが特定できないようデータベースに集積し分析したものです。
 - ・同じ人が複数回かけてきている場合があり、「件数＝人数」とはかぎりません。
 - ・集計にあたっての分母は、「着信の内訳」を除き、「会話成立（子ども）」数です。
（ただし、合計値には「未入力」も含まれるため、一致しない場合があります。）
 - ・単位表記のない数値は全て「件」。

着信の内訳

電話での子どもとの会話成立は 25%でした。
無言は 50%を超えています。無言には、つながった途端に切れるものと長く無言のまま切れるものがあります。
無言や会話不成立には、お試しでかけてみた場合やつながったものの話し出せなかった場合もあると考えています。
オンラインチャットでは、子どもとの会話成立が 80%を超えています。

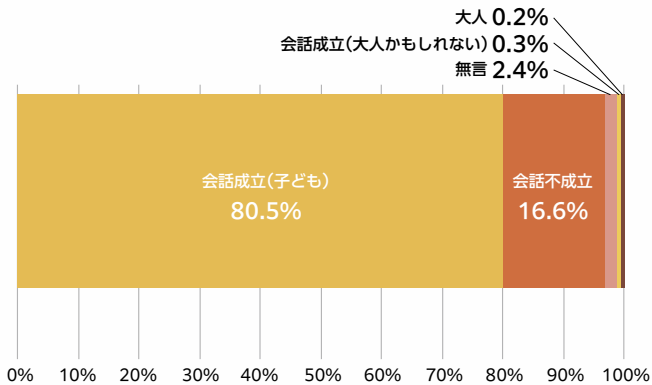
電話

	着信数	比率
会話成立（子ども）	42,963	25.0%
会話不成立	28,268	16.4%
無言	94,071	54.7%
会話成立（大人かもしれない）	2,732	1.6%
大人	4,037	2.3%
合計	172,071	100%



オンラインチャット

	着信数	比率
会話成立（子ども）	7,757	80.5%
会話不成立	1,595	16.6%
無言	227	2.4%
会話成立（大人かもしれない）	32	0.3%
大人	22	0.2%
合計	9,633	100%



※「会話不成立」はコミュニケーションが成立しないもの、性的な目的でかけてきたものなどを分類しています。
※「会話成立(大人かもしれない)」は、内容・言葉使いなどから受け手が「大人かもしれない」と感じたものです。
※未入力のデータがあるため、トラヒックデータとは一致しません。

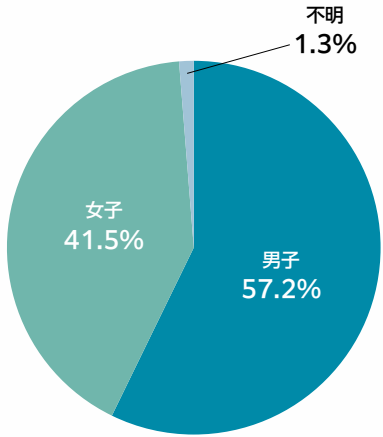
「会話成立（子ども）」について分析

（電話：42,963 件・オンラインチャット：7,757 件）

性別

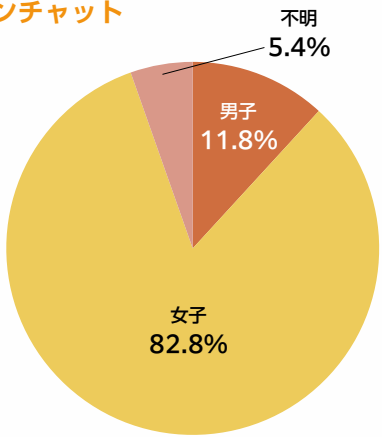
電話では男子の割合が半数を超え、オンラインチャットでは女子の割合が圧倒的に多くなっています。

電話



男子	女子	不明	合計
24,584	17,837	542	42,963
57.2%	41.5%	1.3%	100%

オンラインチャット

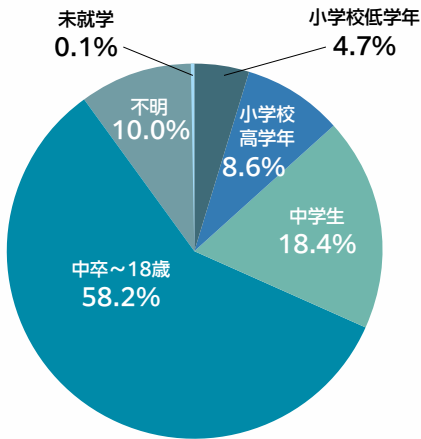


男子	女子	不明	合計
917	6,421	419	7,757
11.8%	82.8%	5.4%	100%

年齢別

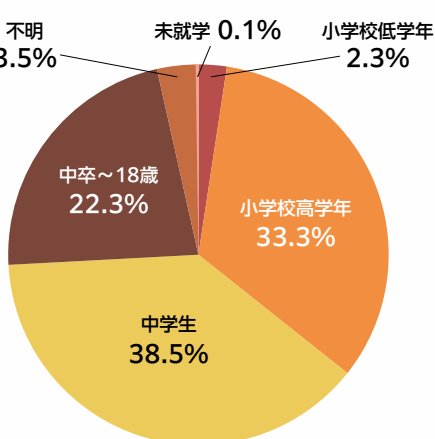
電話では、中卒～18歳の割合が半数を超え、年齢が小さくなるにつれて低くなっています。
オンラインチャットでは、中学生、小学校高学年、中卒～18歳の順に割合が高くなっています。

電話



未就学	小学校低学年	小学校高学年	中学生	中卒～18歳	不明	合計
47	1,998	3,704	7,925	24,995	4,294	42,963
0.1%	4.7%	8.6%	18.4%	58.2%	10.0%	100%

オンラインチャット



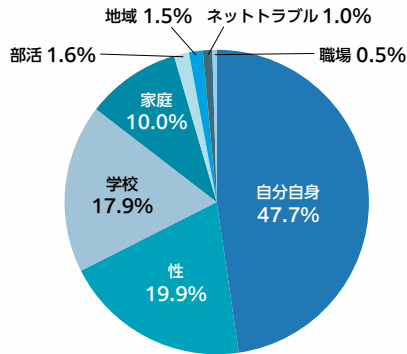
未就学	小学校低学年	小学校高学年	中学生	中卒～18歳	不明	合計
4	182	2,582	2,984	1,733	272	7,757
0.1%	2.3%	33.3%	38.5%	22.3%	3.5%	100%

主訴

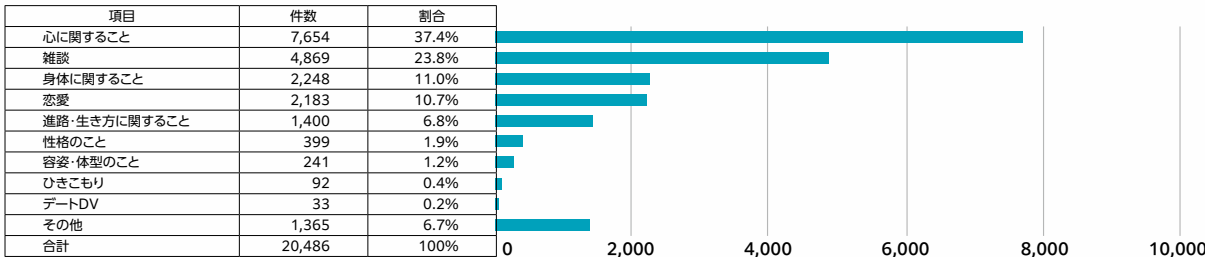
電話

「自分自身」「学校」の割合が若干減少し、「性」が増えています。「自分自身」の内訳では、「心に関すること」「雑談」が多くなっています。雑談については、たわいない話をしたい場合や試しにかけてみた場合、本当に話したい内容があったが話せなかった場合などが考えられます。「性」では、「性行動」「自慰」に関することが多く、興味・関心も含めて、性教育の必要性を感じます。「学校」では「人間関係」が半数を超え、「いじめ」と続きます。「家庭」でも「人間関係」が最も多く、半数近くを占めています。親と関係性や意見の違いなどの声が多く寄せられます。また、「虐待」も約 30%になっています。

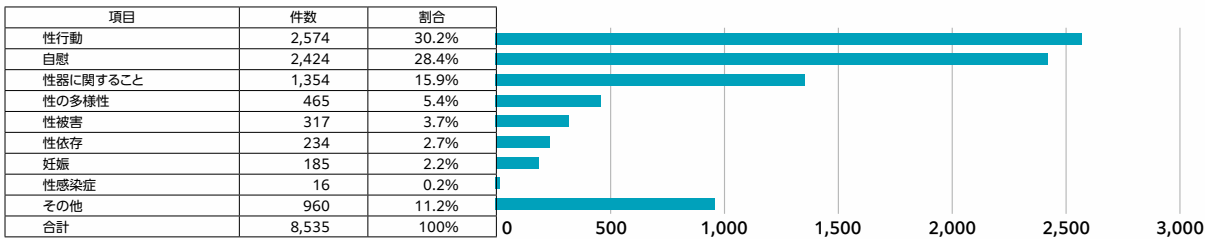
大項目	2022年度		2021年度	
	件数	比率	件数	比率
自分自身	20,486	47.7%	20,479	49.0%
性	8,535	19.9%	6,918	16.5%
学校	7,687	17.9%	7,925	18.9%
家庭	4,309	10.0%	4,462	10.7%
部活	686	1.6%	672	1.6%
地域	629	1.5%	636	1.5%
ネットトラブル	430	1.0%	496	1.2%
職場	201	0.5%	235	0.6%
合計	42,963	100%	41,823	100%



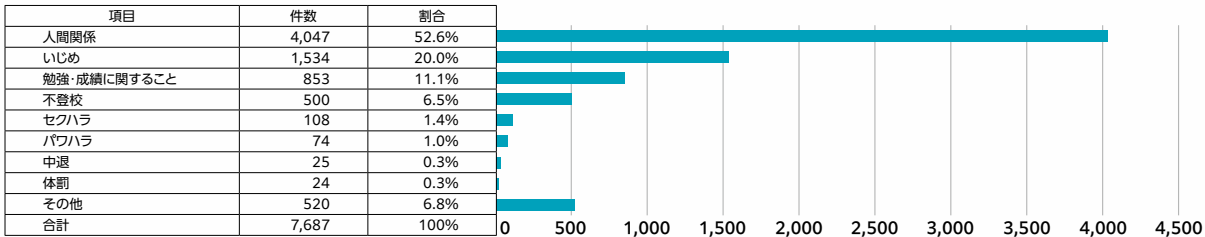
自分自身



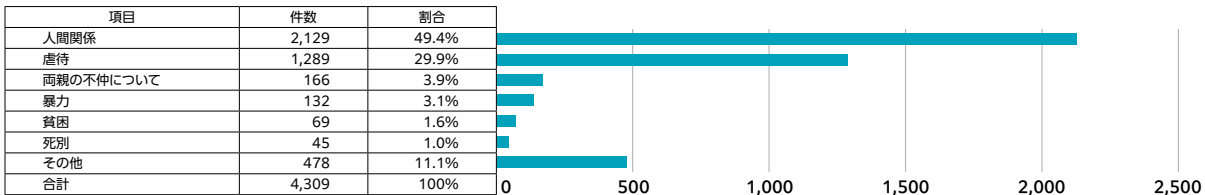
性



学校



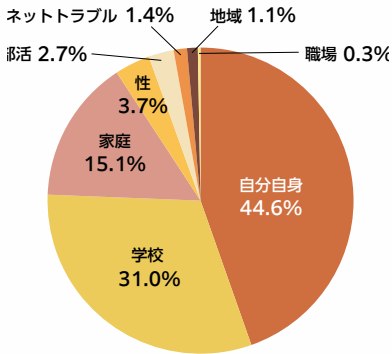
家庭



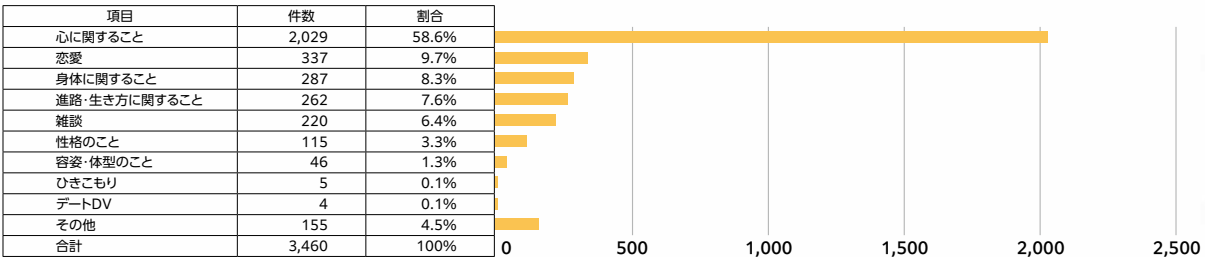
オンラインチャット

「自分自身」の割合が減少し、「学校」が増えています。「自分自身」の内訳では、「心に関すること」が60%近くを占めています。「学校」では、「人間関係」が60%を超え、次いで「いじめ」となっています。「家庭」でも、「人間関係」が最も多く、半数を超えています。また、「虐待」も30%近くになっています。「性」に関する内容自体が少ないのですが、内訳では「性の多様性」が半数を超えています。

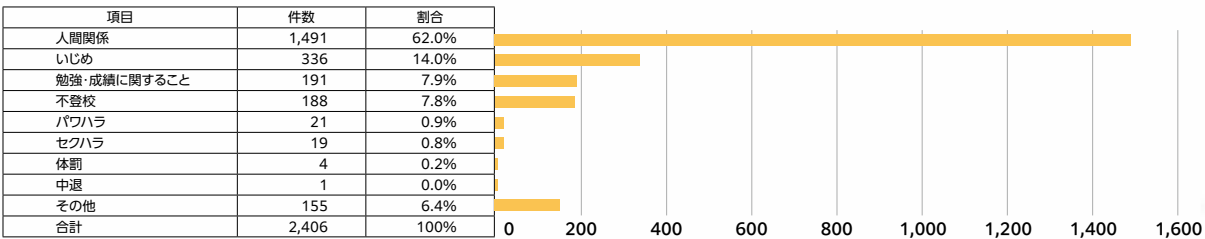
大項目	2022年度		2021年度	
	件数	比率	件数	比率
自分自身	3,460	44.6%	2,163	48.3%
学校	2,406	31.0%	1,206	26.9%
家庭	1,175	15.1%	709	15.8%
性	290	3.7%	166	3.7%
部活	207	2.7%	116	2.6%
ネットトラブル	109	1.4%	73	1.6%
地域	88	1.1%	44	1.0%
職場	22	0.3%	5	0.1%
合計	7,757	100%	4,482	100%



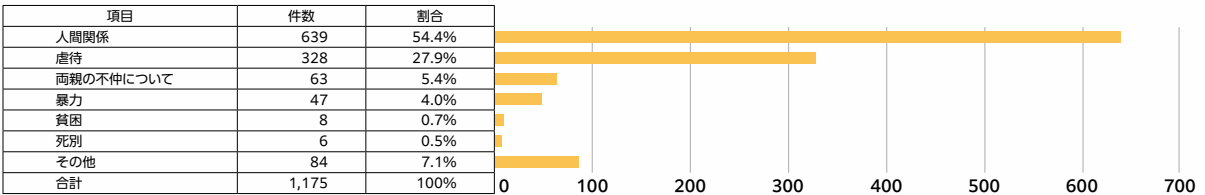
自分自身



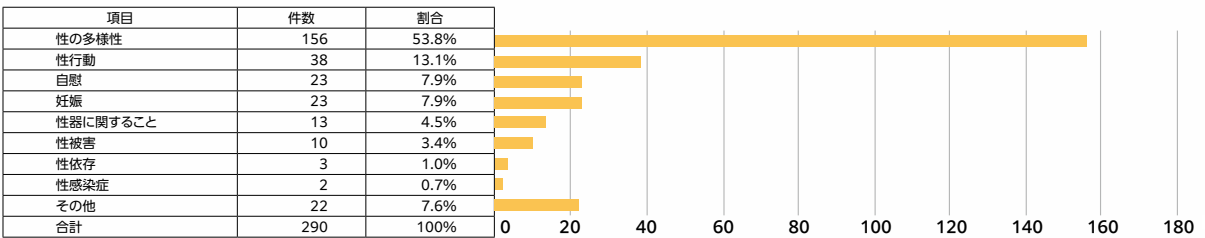
学校



家庭



性



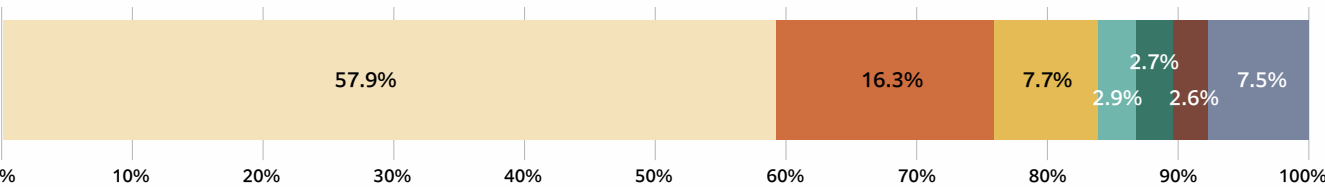
関係性

電話・オンラインチャット

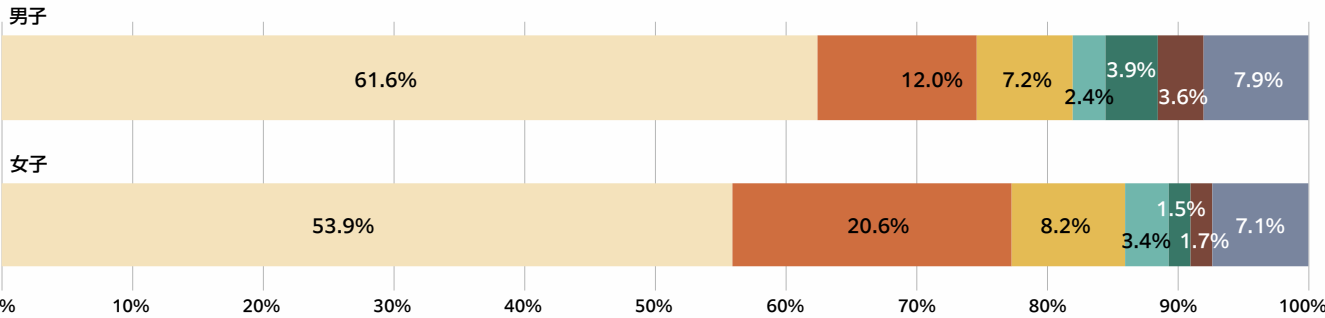
子どもの話した内容が誰のことなのか、また誰との関係で起こっていることなのかをまとめました。

全体に「自分自身のこと」の割合が高くなっています。男子は女子と比べて「自分自身のこと」が多く、「友人・知人」が少なくなっています。年齢別では、年齢が上がるにつれて「自分自身のこと」が増え、「友人・知人」が減っています。

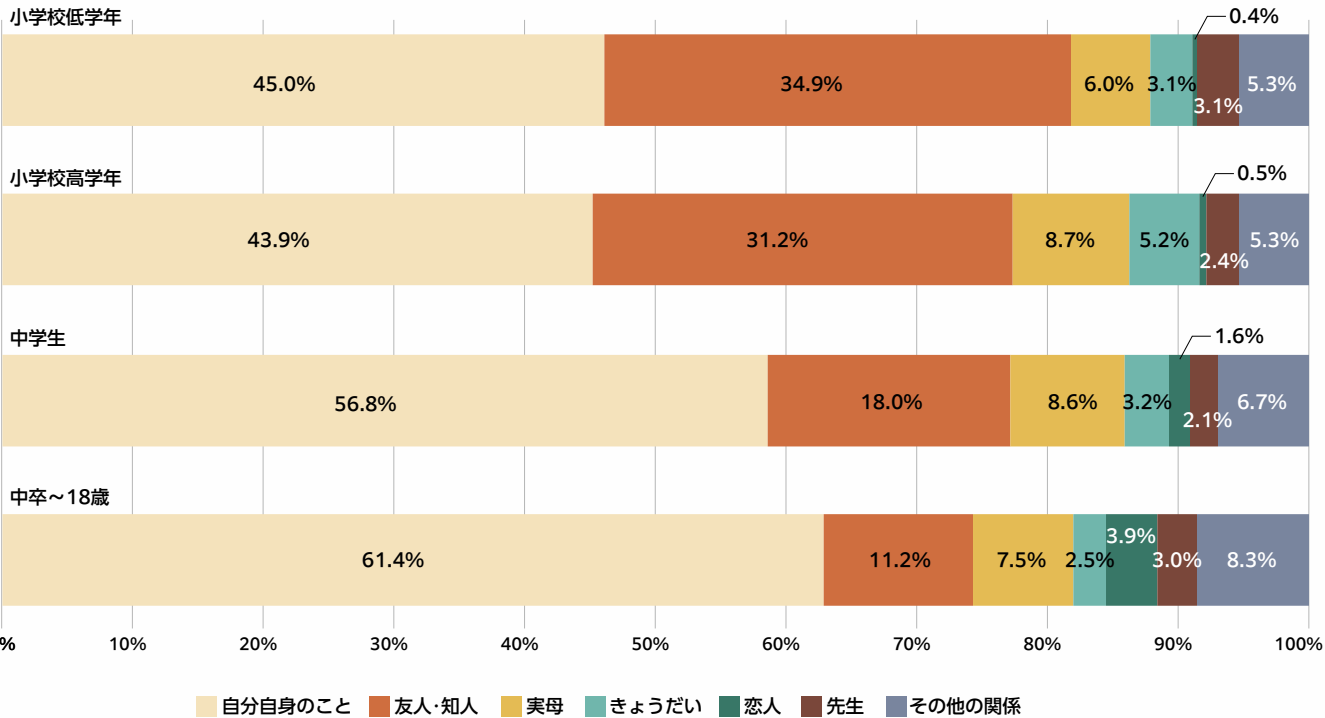
全体



性別



年齢別

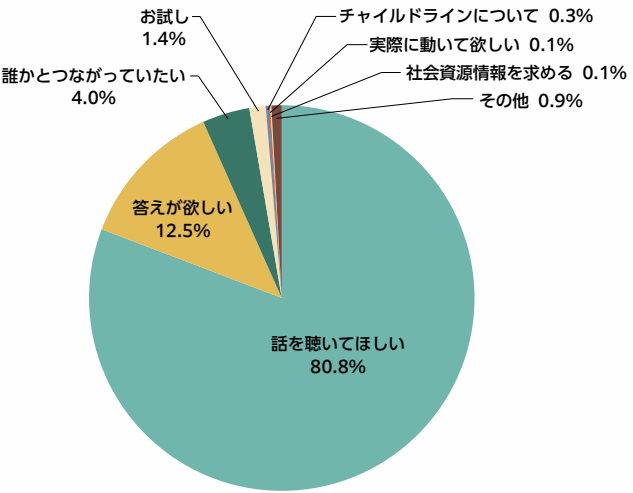


動機

電話・オンラインチャット

受け手が感じた子どもが電話をかけた動機は「話を聴いてほしい」が約80%です。「話を聴いてほしい」「誰かとつながっていたい」を合わせた約85%の子どもが「話し相手」を求めていると考えられます。

	件数	比率
話を聴いてほしい	40,983	80.8%
答えが欲しい	6,352	12.5%
誰かとつながっていたい	2,017	4.0%
お試し	693	1.4%
チャイルドラインについて	160	0.3%
社会資源情報を求める	51	0.1%
実際に動いて欲しい	26	0.1%
その他	438	0.9%
合計	50,720	100%



気持ち

電話・オンラインチャット

全体では「不安」の割合が最も高くなっていますが、男子では「困惑・困っている」、女子では「つらい・苦しい」が最も多くなっています。また、年齢別では、小学生は「イヤだ」が最も多く、中学生は「つらい・苦しい」、中卒～18歳は「不安」となっています。

性別/気持ち	男 n=25,501	女 n=24,258	不明 n=961	全体 n=50,720
不安	15.0%	14.5%	12.8%	14.7%
困惑・困っている	18.1%	10.8%	12.4%	14.5%
つらい・苦しい	7.1%	18.1%	17.3%	12.6%
イヤだ	7.3%	11.5%	9.2%	9.4%
葛藤・迷い・戸惑い	11.2%	6.5%	6.6%	8.9%
怒り・いらだち	4.6%	3.9%	3.1%	4.3%
うれしい・たのしい	4.1%	3.3%	2.7%	3.7%
孤独・寂しさ	3.0%	3.7%	2.6%	3.4%
憂鬱	2.8%	3.7%	3.4%	3.2%
自分に自信がない	1.9%	3.1%	2.2%	2.5%
悲しい	1.0%	3.1%	2.1%	2.0%
恐怖・怖い	0.9%	2.9%	3.0%	1.9%
楽しみ・期待	2.0%	1.5%	1.8%	1.7%
疲れ	0.9%	1.9%	1.5%	1.4%
人目が気になる	1.2%	0.9%	1.0%	1.1%
くやしい	1.0%	1.2%	0.5%	1.1%
あきらめ	0.7%	1.1%	0.9%	0.9%
満足・充実感	0.9%	0.4%	0.4%	0.6%
傷つきたくない	0.4%	0.6%	0.3%	0.5%
幸せ	0.5%	0.3%	0.0%	0.4%
傷つけたくない	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%
不明	10.0%	4.0%	11.0%	7.2%
その他	5.1%	2.7%	4.9%	3.9%
合計	100%	100%	100%	100%

年齢/気持ち	未就学 n=51	小学校 低学年 n=2,180	小学校 高学年 n=6,286	中学生 n=10,909	中卒～ 18歳 n=26,728	不明 n=4,566	全体 n=50,720
不安	13.7%	9.5%	12.8%	16.9%	15.3%	11.2%	14.7%
困惑・困っている	13.7%	15.4%	14.0%	15.2%	14.7%	12.1%	14.5%
つらい・苦しい	3.9%	4.5%	12.9%	17.0%	12.3%	7.4%	12.6%
イヤだ	13.7%	24.3%	17.5%	10.0%	6.4%	6.6%	9.4%
葛藤・迷い・戸惑い	13.7%	3.3%	5.5%	8.3%	10.7%	6.8%	8.9%
怒り・いらだち	2.0%	2.8%	3.2%	2.9%	4.7%	6.9%	4.3%
うれしい・たのしい	11.8%	10.0%	3.9%	2.6%	3.2%	5.1%	3.7%
孤独・寂しさ	3.9%	5.5%	3.4%	2.8%	3.4%	3.3%	3.4%
憂鬱	0.0%	1.9%	3.6%	3.1%	3.3%	3.7%	3.2%
自分に自信がない	3.9%	1.0%	2.1%	2.4%	2.8%	1.4%	2.5%
悲しい	2.0%	4.4%	4.1%	2.2%	1.4%	1.4%	2.0%
恐怖・怖い	2.0%	3.4%	2.8%	2.4%	1.4%	1.4%	1.9%
楽しみ・期待	0.0%	2.8%	1.9%	0.8%	2.0%	1.5%	1.7%
疲れ	0.0%	0.6%	1.0%	1.5%	1.5%	1.3%	1.4%
人目が気になる	0.0%	0.2%	1.0%	1.2%	1.1%	1.1%	1.1%
くやしい	0.0%	0.8%	1.4%	1.1%	1.1%	1.0%	1.1%
あきらめ	0.0%	0.4%	0.5%	0.8%	1.0%	0.5%	0.9%
満足・充実感	0.0%	0.3%	0.5%	0.3%	0.8%	0.4%	0.6%
傷つきたくない	2.0%	0.3%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%
幸せ	0.0%	0.5%	0.2%	0.4%	0.5%	0.3%	0.4%
傷つけたくない	0.0%	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%	0.2%	0.3%
不明	13.7%	4.5%	4.3%	4.3%	7.2%	19.3%	7.2%
その他	0.0%	3.1%	2.8%	3.1%	4.2%	6.5%	3.9%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

*電話とオンラインチャットともに同様の傾向のため、合わせたデータとなっています。

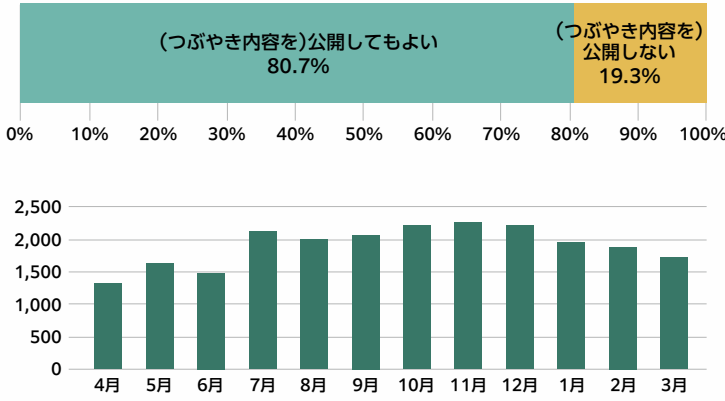
つぶやく

24 時間いつでも匿名で気持ちを書き込むことができます。
「公開してもよい」を選んだ書き込みの中から、毎月 50 件程度をホームページ上で公開しています。

	書き込み数	比率
(つぶやき内容を)公開してもよい	18,458	80.7%
(つぶやき内容を)公開しない	4,416	19.3%
合計	22,874	100%

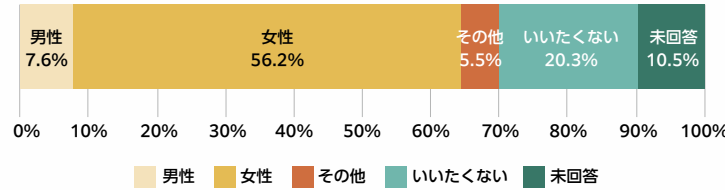
月別件数

7 月から 12 月にかけて、書き込みが 2,000 件を超えています。最も多いのは 11 月の 2,256 件でした。



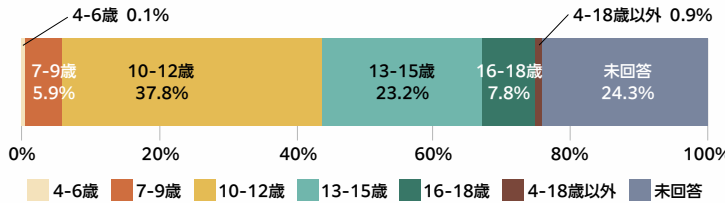
性別

子どもが選択した性です。女性が半数を超えており、また、「いいたくない」も 20%となっています。



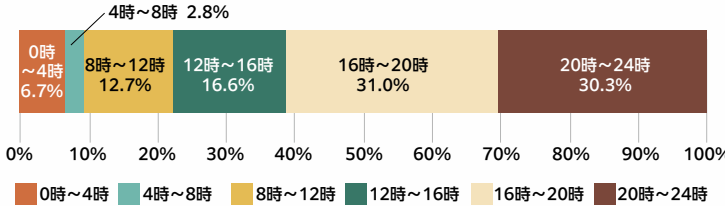
年齢別

子どもが選択した年齢です。小学校高学年年齢が最も多く、次いで中学生年齢となっています。



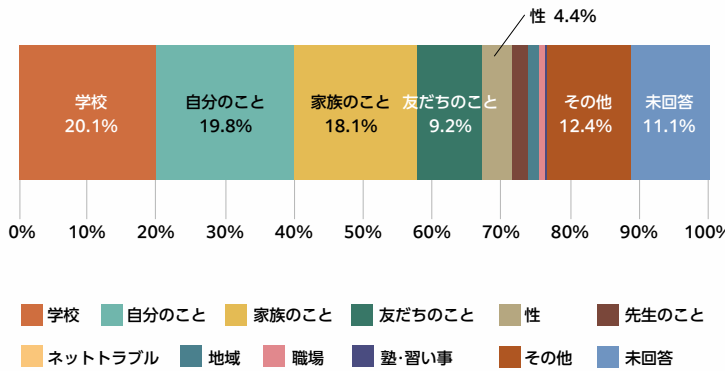
時間帯別

書き込んだ時間帯です。16 時～20 時の放課後以降の時間の割合が最も高くなっています。通学・在学時間中にも 30% 近くの書き込みがあります。



ジャンル別

「学校」「自分のこと」「家族のこと」の割合が高くなっています。選ばれたジャンルとつぶやかれた内容が一致していないことや、選んだジャンルから、違うジャンルに話に移っていることがあります。ジャンルは一つしか選択できませんが、複数の課題を抱えている子どもが多く見受けられます。また、つぶやいているうちに、気持ちが整理されて本当に言いたかったことが見えてくることもあるのかもしれません。

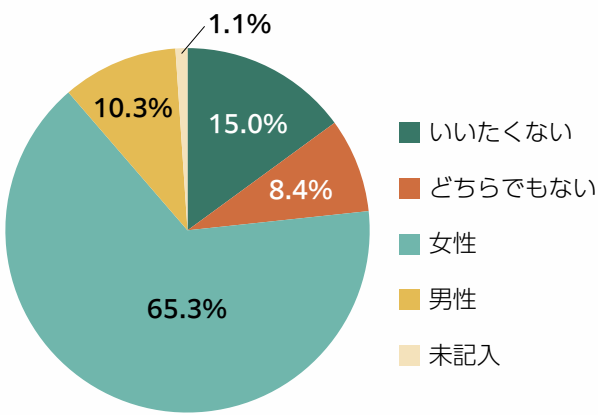


子どもにきいてみた ～知ってるかなアンケート～

チャイルドラインのホームページに子どもが気軽に参加できる場をつくろうと始めた企画です。社会で話題になっていることや子どもたちに知っておいてほしいことについて、アンケート形式で尋ねました。アンケート毎の子どもへの回答編では、結果だけでなく、受け取った子どもの気持ちから感じたことやぜひ知っておいてほしいことなどをホームページに掲載しています。
(<https://childline.or.jp/enquete-backnumber>)



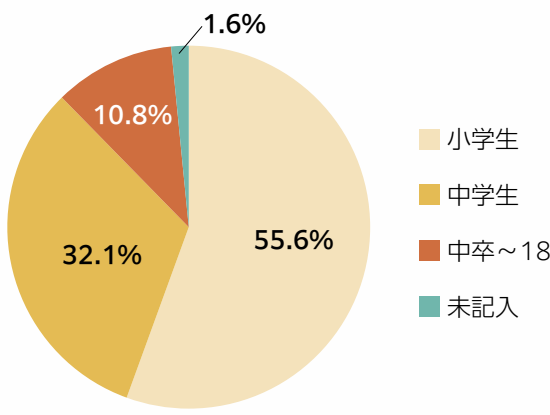
性別 (のべ回答数：1,411 件)



アンケート概要

	テーマ	期間	回答数
第 1 回	電話番号	11 月 1 日～ 20 日	301 件
第 2 回	生理	12 月 7 日～ 20 日	266 件
第 3 回	子どもの権利	1 月 5 日～ 20 日	368 件
第 4 回	ルッキズム	2 月 6 日～ 20 日	254 件
第 5 回	ジェンダー	3 月 6 日～ 20 日	222 件

年齢 (のべ回答数：1,411 件)



第 1 回 電話番号

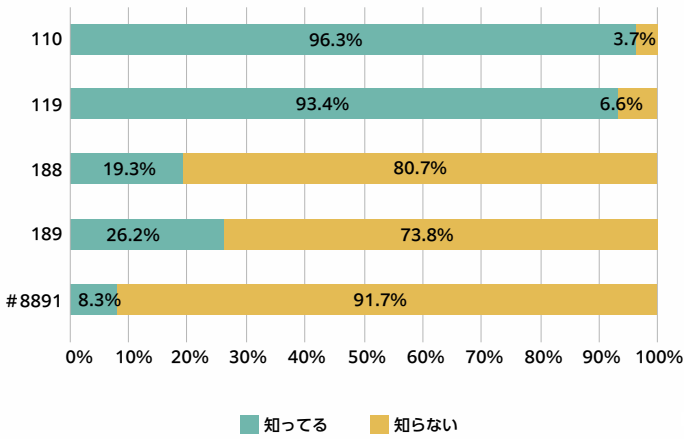
5 つの電話番号 (110、119、188、189 # 8891) について「知っている」「知らない」でアンケートを取りました。おとな子どもから相談を受けたときのために知っておきたい番号です。

110 と 119 は 90% 以上の認知度でしたが、188 (消費者ホットライン)、189 (児童相談所全国共通ダイヤル)、# 8891 (性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター) は、まだまだ子どもには知られていません。特に、# 8891 は 10% にも満たない状況です。性犯罪や性暴力は相談しづらい内容ですが、対応を急ぐ場合もあります。また、189 も公共施設などでポスターを見かけますが、25% 程度の認知率でした。これらはもっとたくさん子どもに知っておいてほしい番号です。

知っていても自分が被害にあっているという認識がな

ければ、189 にも # 8891 にも電話はできません。「しつけ」という名の虐待や「愛情確認」という名の性暴力、「グリーミング」からの性犯罪などは、自分が被害者であることを気づきにくくさせています。何よりもまず、虐待や性についての教育が急がれます。

5 つの電話番号を知っていますか？



第2回 生理

「生理の貧困」という言葉をよく聞くようになりました。これは、経済的な理由などで生理用品を入手できない環境にあることをいいますが、国も「生理の貧困は、女性の健康や尊厳に関わる重要な課題となっている」（令和4年厚生労働省「『生理の貧困』が女性の心身の健康等に及ぼす影響に関する調査結果」）と捉えており、最近では、学校や公共施設などで生理用品を無料配布している自治体も、少しずつ増えてきました。また、生理痛についてパートナーや男性保護者も理解を進めようという取り組みを行なっている企業もあります。

生理は女性の身体の仕組みであり、本来、恥ずかしいことでも隠すことでもないはずなのですが、相談しづらいという人も多いと思います。相談しやすい環境を作るとともに、性別に関係なく生理について理解を進めることが必要です。女性の尊厳、全ての人の尊厳が守られる社会になっていくことを願います。

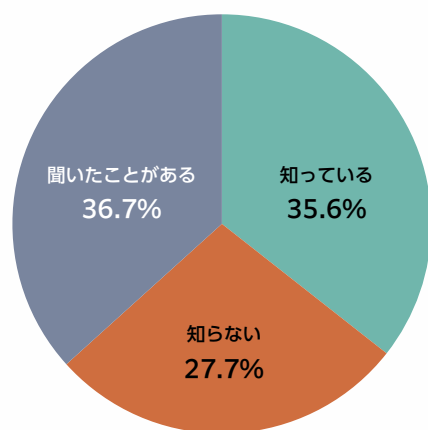
第3回 子どもの権利

全ての子どもが生まれたときから持っているもので、当たり前を守られるべきことが「子どもの権利」です。様々な子どもの権利の内容と、それを保障するためにおとながすべきことが「子どもの権利条約」で定められています。

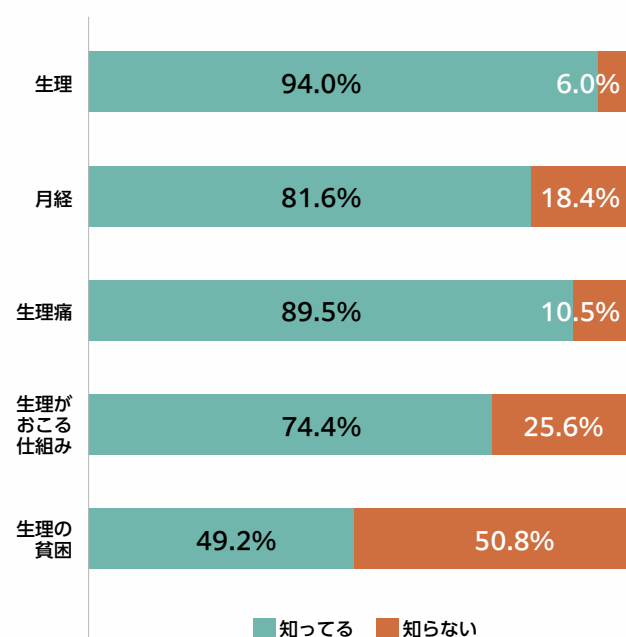
いじめ、体罰、虐待などの権利侵害が、日常生活の様々な場面で起こっています。そして、それを自分が悪いから仕方がないと捉えてしまう子どもたちがいます。悪いことは悪いこととして正されなければなりません、それが権利侵害になってはいけません。

子どもたちには、権利があることを知ってほしい。「知っている」ことは自分が権利侵害を受けたときの大きな武

子どもの権利条約を知っていますか？



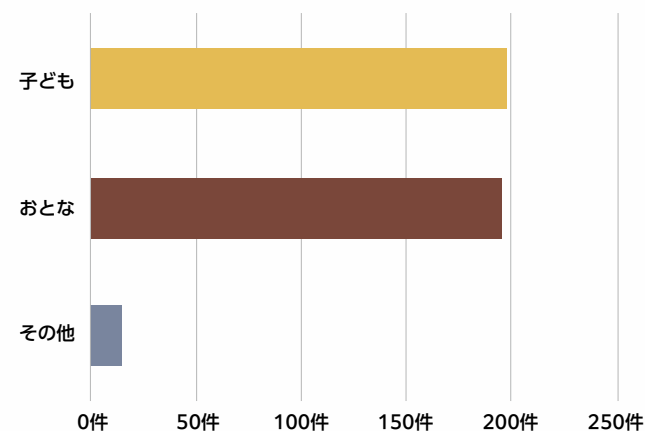
生理について知っていますか？



器になります。おとなには、「子どものため」という名目で子どもの権利侵害をしていないか、今一度自分の関わりを振り返ってほしいと思います。

義務教育の義務はおとな・社会の義務であり、子どもには学ぶ権利、教育を受ける権利があります。ですが、子どもに義務があると思っている子どもがまだまだ多くいます。小中学校は義務教育ですが、それは教育を受ける権利を保障する方法の一つです。権利侵害状況にある不登校の子どもが年々増加しています。おとなは、「学校に行く」以外の選択肢を早急に示さないといけなのではないでしょうか。

義務教育の「義務」は誰の義務？（複数回答）



第4回 ルッキズム

人を外見で評価する思想が「ルッキズム」です。見た目ですべてを判断してしまったことはありませんか？童話や昔話で無意識に植え付けられたイメージや思い込みがあるのかもしれません。けれど、外見はその人を構成するほんの一部分です。「きれいになりたい」「スタイルよくになりたい」と思うことやきれいな人をうらやましく思うことが悪いわけではありませんが、美しい人が必ず幸せな人生を送れるとは限らないし、人としての素晴らしさはそれだけでは決まりません。また、生まれ持った顔かたちなど自分の力で変えられないもので人を評価することは人権侵害です。

「ルッキズム」は子どもたちにはまだあまり知られていない言葉のようですが、この考え方に近い意識が、子どもにも、私たちおとなにもあるように思います。スクールカーストもこの意識の表れの一つではないでしょうか。社会に溢れる「ルッキズム」に支配されることのないように、子どももおとなも考えていかなければならないテーマのように思います。

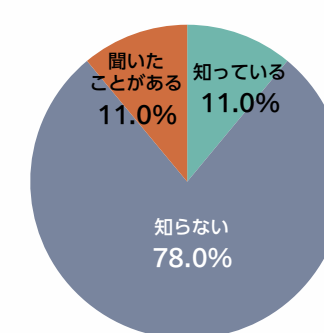
第5回 ジェンダー

最近では、トランスジェンダーやLGBTQ+などという性に関する言葉を耳にすることが増えてきました。性別欄には、以前は男女しかありませんでしたが、最近ではそれ以外の選択肢があったり、性別欄そのものがなかったりします。

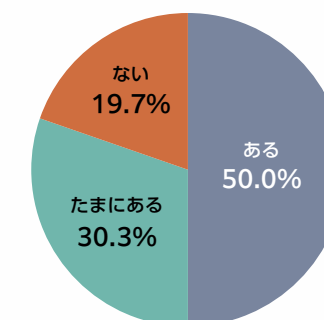
アンケートから見ると、子どもたちの多くは、性別はもはや男女だけではないことを知っているようです。自分自身の性への違和感であったり、周りに男女以外の性の人がいったりすることから、柔軟に受け入れています。また、80%以上の子どもが、男性が花柄のハンカチを持ってもいいし、料理は女性だけの役割ではないと答えています。単に性別だけで身につける色や模様、役割が決まるのはおかしいということ、恋愛対象も異性に限らないことなど、おとなが長い時間をかけてやっと受け入れようとしていることを子どもたちは当然のこととして捉えています。

ジェンダーについての自由記述欄には、自分自身の性への違和感とともに、よくわからないという書き込みもいくつかありました。「ジェンダーの意味を知っているか」という設問に対して「知っている」と答えたのは約56%。やはり、何事もまずは知ることからです。そして、子どもの書き込みにあったように「性別をきめるのは自

ルッキズムという言葉を知っていますか？

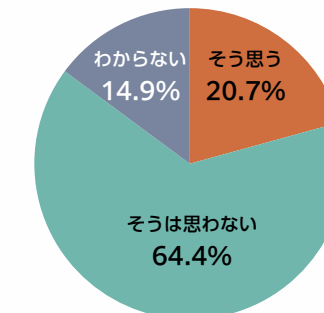


「スタイルがいい」「顔がいい」などが理由で人をうらやましいとか、ずるいとか思うことがありますか？

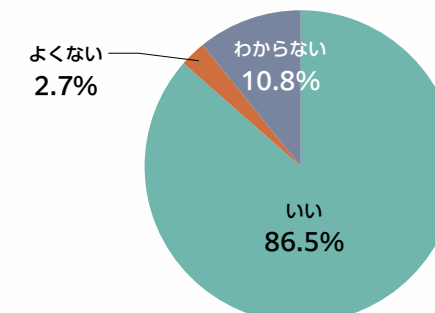


分」です。どの選択もその人それぞれが持つ権利の行使あり、その権利が侵害されることのない社会になることを願います。

人間の性別は男と女だけだと思いますか？



恋愛は同性でもいいですか？



子どもの生きやすい 社会をめざす

子どもへの広報

ひとりでも多くの子どもにチャイルドラインの存在を知ってもらい、必要な時につながれるようさまざまな方法で広報しています。

カード・ポスター

チャイルドラインの情報を掲載した名刺サイズのカードを全国小中高等学校、特別支援学校などへ約 1,217 万枚配布しました。配布にあたっては各都道府県・市町村教育委員会、校長会、私学協会、また、配布作業にあたっては企業・個人のボランティアにご協力いただきました。

また全国 5,258 の小児科医院、2,696 か所の児童館に広報ポスターを配布しました。
(ご協力：公益社団法人日本小児科医会、一般社団法人児童健全育成推進財団)

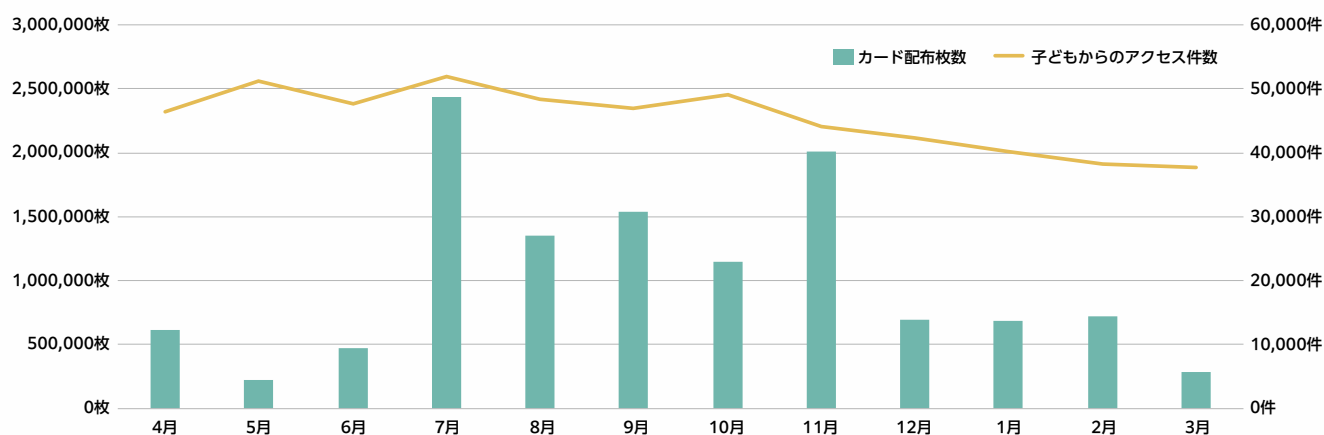


月別カード配布枚数とフリーダイヤル・オンラインチャットのアクセス数

2022 年度は 8 月 22 日～9 月 4 日にチャイルドライン全国キャンペーンを実施し、実施団体の体制強化と共に広報にも力を入れ、キャンペーン前後の 7～9 月に約 533 万枚のカードを配布しました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
カード配布枚数	613,800枚	222,060枚	471,110枚	2,435,549枚	1,351,147枚	1,539,264枚	1,144,135枚
子どもからのアクセス件数	46,486件	51,153件	47,628件	51,906件	48,361件	46,931件	49,162件
アクセスの内訳	フリーダイヤル発信数	36,811件	40,845件	37,556件	40,157件	35,795件	34,033件
	オンラインチャット訪問件数	9,675件	10,308件	10,072件	11,749件	12,566件	12,417件

	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
カード配布枚数	2,011,805枚	694,155枚	686,010枚	716,190枚	280,744枚	12,165,969枚	1,013,831枚
子どもからのアクセス件数	44,054件	42,352件	40,208件	38,253件	37,673件	544,167件	45,347件
アクセスの内訳	フリーダイヤル発信数	32,821件	30,754件	29,550件	27,705件	27,948件	410,720件
	オンラインチャット訪問件数	11,233件	11,598件	10,658件	10,548件	9,725件	133,447件



LINE NEWS グラフィティ

LINE ニュースなどで LINE NEWS グラフィティとして必要な時にチャイルドラインを広報できるように LINE 社が広報素材動画を制作するにあたり、監修協力しました。広く「子どもの権利」を伝え、チャイルドラインにつながること、相談することを知ってもらう機会となりました。

「ありのままで安心できる心の居場所をチャイルドラインと子どもの権利」

<https://news.line.me/graffiti/detail/society/128>



チャイルドライン全国キャンペーン（2022年8月22日～9月4日）

夏休み明けの子どもの不安、希死念慮が高まる時期に合わせ、全国キャンペーンを実施しました。全国の実施団体が協力し、フリーダイヤルは回線数を増やす体制強化、オンラインチャットは毎日開設し、できるだけ多くの子どもの声を受けとめました。子どもに向けたポスターを制作し、HP 上からもメッセージを発信しました。



HP 上から発信したメッセージ

聴かせてほしい あなたの声
あなたの気持ちを大切にしたいおとながここにいる
あなたは、ひとりじゃない

言いたくてものみ込んでしまった気持ちはありませんか？
子どもの持っている権利の中に、自分の気持ちや意見を「話す権利」と「聴かれる権利」があります。
「権利」っていう言葉はむずかしいけれど、どんな人も持っている、あたりまえにしていることが権利です。
だから、話すことをがまんしないでいい。
もし、周りに話せそうな人が見つからなかったら…
チャイルドラインはどんな気持ちも
聴かせてほしいと思って待っています。
あなたが「話したい」と思った大切な気持ち、チャイルドラインに聴かせてください。

ネットでんわ試行

第1回：2022年11月24日～31日

第2回：2023年3月22日～28日

フリーダイヤルにつながることでできない子どもを視野に入れてインターネット回線でつながれるようアプリを開発しました。2023年度の定期実施をめざし、試行とアプリ改修を重ねました。



行政機関との連携

内閣官房「孤独・孤立相談ダイヤル」への協力

内閣官房 孤独・孤立対策担当室による「統一的な相談窓口体制の推進のための相談ダイヤル試行」において、子どもからの相談窓口が設置されるにあたり、子どもの権利の保障、子どもの視点を提言するため4回の試行に協力しました。

内閣官房 孤独・孤立対策担当室 孤独・孤立対策

【原油価格・物価高騰等総合緊急対策における孤独・孤立対策】

①各種支援策を届けるための体制強化等 ②統一的な相談窓口体制の推進

長引くコロナ禍や物価高騰等により高まる相談ニーズへの迅速な対応に資するよう、関係団体が連携して統一的に24時間相談を受け付ける新たな窓口体制を緊急にモデルとして稼働させ、効果的な連携を推進していく

(内閣官房 HP より)

SNS 相談事業者コンソーシアム

厚生労働省自殺防止対策事業に参加する他の SNS 相談実施事業者と連携し、下記をお願いをしました。

- ・報道機関向け、ウェルテル効果、後追いなどを考慮し、具体的報道を差し控えること
- ・全国各地の警察へのつなぎ支援が円滑になるよう SNS 相談および事業者の周知

自殺や孤独、孤立といった問題の最前線に対応にあたる SNS 相談事業者同士がコンソーシアムを形成し、各事業者のノウハウやデータの共有を行うことにより、SNS 相談技術の開発・向上、ならび SNS 相談窓口の普及推進等を図る。また、行政との連携・協働を通じて、自殺や孤独、孤立といった問題に対する各施策が効果的に実施されるよう務める。

(厚生労働省 HP より)

チャイルドライン支援議員連盟総会・勉強会



日時：2022年12月5日 @衆議院議員会館
「こども基本法」が成立した2022年、2年ぶりにチャイルドライン支援議員連盟総会および勉強会が開催されました。
議連会長に野田聖子衆議院議員、事務局長に小西洋之参議院議員が就任し、野田会長から「子どもの最善の利益を第一に考え自ら汗をかいていきたい」と就任のあいさつがあり、チャイルドラインから活動報告、子どもの現状、これから果たしていきたい役割についての報告とお願いののち、浮島智子幹事長からの日本におけるチャイルドライン活動の必要性についての発言をはじめ、活発な質問意見交換がされました。閉会にあたっては小西事務局長から議員、各省庁で具体的なことを詰めていくという力強いメッセージがありました。

陪席

- 内閣官房

こども家庭庁設立準備室参事官
- //
- 内閣府

政策統括官（政策調整担当）
付調査官（青少年企画・支援）
- //
- 厚生労働省

子ども家庭局家庭福祉課
虐待防止対策推進室室長
- //
- //

母子保健課母子保健指導専門官
- //
- //

大臣官房参事官（自殺対策担当）
- 文部科学省

初等中等教育局児童生徒課長補佐
- //
- //

総合教育政策局地域学習推進課
家庭教育支援室室長補佐
- 法務省

人権擁護局調査救済課補佐官
- 警察庁

生活安全局人身安全・少年課課長補佐



チャイルドライン支援議員連盟名簿

役員

- 会長

野田聖子（自民）
- 幹事長

浮島智子（公明）
- 幹事

上川陽子（自民）
- 副会長

泉健太（立憲）
- 事務局長

小西洋之（立憲）
- 阿部知子（立憲）
- 事務局次長

鈴木庸介（立憲）
- 田嶋要（立憲）
- 金村龍那（維新）
- 高橋千鶴子（共産）

名前	会派	衆参	選挙区
石橋 林太郎	自由民主党	衆	比例中国
伊東 良孝	自由民主党	衆	北海道7区
江渡 聡徳	自由民主党	衆	青森1区
衛藤 征士郎	自由民主党	衆	大分2区
遠藤 利明	自由民主党	衆	山形1区
大岡 敏孝	自由民主党	衆	滋賀1区
柿沢 未途	自由民主党	衆	東京15区
上川 陽子	自由民主党	衆	静岡1区
岸田 文雄	自由民主党	衆	広島1区
北村 誠吾	自由民主党	衆	長崎4区
工藤 彰三	自由民主党	衆	愛知4区
坂本 哲志	自由民主党	衆	熊本3区
佐々木 紀	自由民主党	衆	石川2区
塩谷 立	自由民主党	衆	比例東海
武部 新	自由民主党	衆	北海道12区
永岡 桂子	自由民主党	衆	茨城7区
長島 昭久	自由民主党	衆	比例東京
野田 聖子	自由民主党	衆	岐阜1区
野中 厚	自由民主党	衆	比例北関東
平井 卓也	自由民主党	衆	比例四国
藤井 比早之	自由民主党	衆	兵庫4区
船田 元	自由民主党	衆	栃木1区
松野 博一	自由民主党	衆	千葉3区
猪口 邦子	自由民主党	参	千葉
今井 絵理子	自由民主党	参	比例
上野 通子	自由民主党	参	栃木
櫻井 充	自由民主党	参	宮城
末松 信介	自由民主党	参	兵庫
松下 新平	自由民主党	参	宮崎
浮島 智子	公明党	衆	比例近畿
河西 宏一	公明党	衆	比例東京
佐藤 英道	公明党	衆	比例北海道
古屋 範子	公明党	衆	比例南関東
山崎 正恭	公明党	衆	比例四国
阿部 知子	立憲民主党	衆	神奈川12区
石川 香織	立憲民主党	衆	北海道11区
泉 健太	立憲民主党	衆	京都3区
伊藤 俊輔	立憲民主党	衆	比例東京
梅谷 守	立憲民主党	衆	新潟6区
枝野 幸男	立憲民主党	衆	埼玉5区
大河原 まさこ	立憲民主党	衆	比例東京
逢坂 誠二	立憲民主党	衆	北海道8区
大島 敦	立憲民主党	衆	埼玉6区

名前	会派	衆参	選挙区
岡本 あき子	立憲民主党	衆	比例東北
金子 恵美	立憲民主党	衆	福島1区
源馬 謙太郎	立憲民主党	衆	静岡8区
神津 たけし	立憲民主党	衆	比例北陸信越
階 猛	立憲民主党	衆	岩手1区
鈴木 庸介	立憲民主党	衆	比例東京
田嶋 要	立憲民主党	衆	千葉1区
中川 正春	立憲民主党	衆	比例東海
中谷 一馬	立憲民主党	衆	比例南関東
野間 健	立憲民主党	衆	鹿児島3区
原口 一博	立憲民主党	衆	佐賀1区
藤岡 隆雄	立憲民主党	衆	比例北関東
牧 義夫	立憲民主党	衆	比例東海
松木 けんこう	立憲民主党	衆	北海道2区
道下 大樹	立憲民主党	衆	北海道1区
森山 浩行	立憲民主党	衆	比例近畿
山崎 誠	立憲民主党	衆	比例南関東
山田 勝彦	立憲民主党	衆	比例九州
山井 和則	立憲民主党	衆	京都6区
湯原 俊二	立憲民主党	衆	比例中国
渡辺 周	立憲民主党	衆	比例東海
渡辺 創	立憲民主党	衆	宮崎1区
石川 大我	立憲民主党	参	比例
小西 洋之	立憲民主党	参	千葉
高木 真理	立憲民主党	参	埼玉
田名部 匡代	立憲民主党	参	青森
福山 哲郎	立憲民主党	参	京都
宮口 治子	立憲民主党	参	広島
蓮 舫	立憲民主党	参	東京
一谷 勇一郎	日本維新の会	衆	比例近畿
金村 龍那	日本維新の会	衆	比例南関東
梅村 みずほ	日本維新の会	参	大阪
鈴木 宗男	日本維新の会	参	比例
高橋 千鶴子	日本共産党	衆	比例東北
宮本 徹	日本共産党	衆	比例東京
小池 晃	日本共産党	参	比例
田村 智子	日本共産党	参	比例
前原 誠司	国民民主党	衆	京都2区
嘉田 由紀子	国民民主党	参	滋賀
船後 靖彦	れいわ新選組	参	比例
松原 仁	無所属	衆	東京3区
ながえ 孝子	無所属	参	愛媛
寺田 静	無所属	参	秋田

敬称略、順不同

ご支援ご協力一覧

多くの方のご支援ご協力で心より感謝申し上げます。チャイルドライン支援センターは、ミッションに賛同する個人・法人のみなさまからのご寄付、会費、補助金、助成金、協働、ボランティアにより活動を支えていただいています。

寄付・協賛（法人、団体のみなさまのみ掲載、法人支援会員含む 敬称略、順不同）

日本電信電話株式会社	株式会社 NTT ドコモ
ソフトバンク株式会社	宗教法人 真如苑
MS & AD ゆにぞんスマイルクラブ	チャイルドライン支援議員連盟
K D D I 株式会社	つながる募金（ソフトバンク）
三和グループ社会貢献倶楽部	公益社団法人日本フィランソロピー協会 （東京海上 Share Happiness 倶楽部 分）
株式会社オプテージ	一般社団法人ほのぼの運動協議会
シクミオ株式会社	株式会社ユサブル
東京海上ビジネスサポート株式会社	一般財団法人 全国学生保障援助会
よつやわ	若松測量設計株式会社
株式会社おそうじ革命	鎮西学院高等学校
株式会社ヘンプフーズジャパン	株式会社佐藤建設
医療法人キュレスト 山森小児科	株式会社ラングランズ
医療法人社団 ゆずり葉	まえはら小児科
すぎやまこどもクリニック	リンナイ株式会社
医療法人蒼会	株式会社ディ・エフ・エフ
日本碍子株式会社	リンベル株式会社
サントリーホールディングス株式会社	東京海上日動火災保険株式会社
gooddo 株式会社	Yahoo! 募金
まんだら堂	株式会社百合丘調剤室

補助

厚生労働省 自殺防止対策事業「子どもの自死予防そのための対応強化事業」

助成

公益財団法人 JKA 競輪補助事業「子どもとその親が幸せに暮らせる社会を創る活動」
日本労働組合総連合会 連合・愛のカンパ
「子どもの声を聴き、子どもたちが生きやすい社会を目指すチャイルドライン事業」

後援

「2022 チャイルドライン全国キャンペーン」「2023 チャイルドライン全国キャンペーン」
内閣府（2022）
こども家庭庁（2023）
文部科学省
厚生労働省（2022）
総務省
チャイルドライン支援議員連盟
社会福祉法人全国社会福祉協議会
公益社団法人日本小児科医会
公益社団法人日本医師会
一般社団法人いのちの電話
特定非営利活動法人日本 NPO センター

協力

NTT コミュニケーションズ株式会社
株式会社ドコモビジネスソリューションズ
株式会社ジーニー（AI.BiS）
株式会社三門印刷所
全日本自治団体労働組合
コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社
株式会社創造集団 440Hz
株式会社ティピカル・ジャパン
イノウデザイン株式会社
有限会社トランスプロジェクト
有限会社考学舎
株式会社アイテム
有限会社萌文社
ツナガルラボ
東京ボランティア・市民活動センター
雨宮国際特許事務所
税理士法人未来総合会計事務所
社会保険労務士法人 CANAL
株式会社 USTUS
公益社団法人日本小児科医会
一般財団法人児童健全育成推進財団
特定非営利活動法人フリースクール全国ネットワーク
株式会社ポプラ社
LINE 株式会社
茨城県教育委員会
兵庫県教育委員会
神戸市教育委員会
和歌山県教育委員会
香川県教育委員会
佐賀県教育委員会
熊本県教育委員会
熊本市教育委員会
沖縄県教育委員会

敬称略、順不同

パブリシティ

新聞・TV・インターネット

MBS 毎日放送	小5女児自殺で第三者委が「いじめあった」報告書 母親「子どもの命を一番考えて」	2022年4月29日	相談窓口として情報掲載
NHK NEWS7	子どもの悩み相談17万件超に	2022年5月5日	相談窓口として情報掲載
朝日新聞デジタル	子どもの悩み、チャットでも聞くよ でも受け手不足で苦しい人続リ	2022年5月29日	
選挙ドットコム	【相談窓口】子どもの話をきくところ中学生の娘が学校からもらってきたカードです。	2022年7月20日	相談窓口として情報掲載
Yahoo!ニュース	【何で話し合ってくれないのか】中1男子が自殺…“市の対応”を第三者機関が強く批判	2022年7月21日	相談窓口として情報掲載
Yahoo!ニュース	大阪・泉南の中1自殺 市長直轄の第三者委設置へ 市教委の対応調査(毎日新聞)	2022年8月5日	相談窓口として情報掲載
NHK 北海道のニュース	夏休み明け 子どもたちの心の悩み“遠慮なく相談を”	2022年8月19日	相談窓口として情報掲載
TBS NEWS DIG	「夏休み終了」前後は子どものつらい気持ちピーク 悩み相談に電話で応じる「チャイルドライン ...	2022年8月23日	
NHK	夏休み明け 子どもの異変に注意を どんなサイン?相談先一覧	2022年8月25日	
朝日新聞デジタル	つらくなったら相談を 夏休み明けの子どもへ対応窓口	2022年8月26日	
毎日新聞	「こころの悩み」に関する主な相談機関一覧	2022年8月26日	相談窓口として情報掲載
毎日新聞	学校タブレット端末で「安心を」 児童生徒からの相談身近に	2022年8月26日	相談窓口として情報掲載
Yahoo!ニュース	夏休み明け SOS逃さないためには	2022年8月27日	
NHK 東北のニュース	夏休み明けの子どもの不調 保護者はまず寄り添いを	2022年8月27日	相談窓口として情報掲載
東京新聞	校外の安心できる場を 相談先などの紹介サイト開設 実行委、夏休み終了を控え来月9日まで	2022年8月28日	
NHK おはよう日本	夏休み明け 子どもの悩みにどう向き合う?	2022年8月28日	TV情報掲載フリーダイヤル
中日新聞Web	悩める新学期、無理しないで 夏休み明けがづらい君へ	2022年8月31日	相談窓口として情報掲載
Yahoo!ニュース	【ひとりで悩まないで】夏休み明けが不安なキミへ…電話・チャットで悩み相談できる窓口を紹介	2022年9月2日	
TBS NEWS DIG	「自分を見失って…友達もいて勉強もできるのに孤独を感じている」子どものSOS気づくには?	2022年9月2日	
MBS 毎日放送	駐車場で高校生が倒れた状態で発見 搬送先病院で死亡を確認 飛び降り自殺か 西宮市	2022年9月13日	相談窓口として情報掲載
Yahoo!ニュース	担任が小2いじめ「スルーしよう」	2022年9月30日	相談窓口として情報掲載
南信州新聞-minamishinshu.jp	【飯田市・下伊那】「身近な相談先知って」オレンジリボンが児童虐待防止啓発でティッシュ配布	2022年10月2日	相談窓口として情報掲載
Yahoo!ニュース	いじめ文書の保管認める 市が一転	2022年10月6日	相談窓口として情報掲載
Yahoo!ニュース	死亡したのは15歳と17歳の高校生と判明 普通電車で男女がはねられる人身事故 JR千里丘駅	2022年10月9日	相談窓口として情報掲載
Yahoo!ニュース	中1いじめ自殺未遂訴訟 宮崎市は請求棄却求める 地裁で初弁論(毎日新聞)	2022年10月13日	相談窓口として情報掲載
NHKニュース	富山市の女子中学生自殺 市教委が園長や校長を集め臨時の会議	2022年11月25日	相談窓口として情報掲載
Yahoo!ニュース	「いじめの詳細、学校から知らされず」 遺族側憤り 神戸中3自殺	2022年12月10日	相談窓口として情報掲載
朝日新聞デジタル	悩みのある人の相談先	2022年12月18日	相談窓口として情報掲載
NHKニュース	女子中学生自殺問題 母親が会見 “事実を受け止められない”	2022年12月28日	相談窓口として情報掲載
NHKニュース	線路に飛び降りたか 親子3人電車にはなられ死亡 埼玉 戸田	2022年12月29日	相談窓口として情報掲載
朝日新聞デジタル	「消えたい」チャットに絶えない相談 小学生からのアクセス急増	2023年1月21日	相談窓口として情報掲載
Yahoo!ニュース	男子高校生「一緒に死ぬつもりだった」SNSに応じたか 福岡殺害	2023年2月28日	相談窓口として情報掲載
au Webポータル	子どもの自殺、500人を超えて過去最多に 少子化の一方で増加傾向	2023年3月4日	相談窓口として情報掲載
NHKニュース	去年自殺した子どもは514人 今まででいちばん多い	2023年3月17日	相談窓口として情報掲載
朝日新聞デジタル	SNSにあふれる隠語、追いつかぬ規制 囁託殺人罪で高校生家裁送致	2023年3月19日	相談窓口として情報掲載

宮崎日日新聞	休み明け不安 気軽に相談を	2022年8月1日	紹介 情報掲載
朝日中高生新聞	話すとすっきりすること	2022年8月21日	紹介 情報掲載
朝日小学生新聞	休み明けの「スイッチオン」うまくいかないときは	2022年8月23日	紹介 情報掲載
長崎新聞	夏休み明けの居場所	2022年8月31日	紹介 情報掲載
読売新聞	学校の不安・悩み相談して	2022年8月31日	紹介 情報掲載
不登校新聞	相談主訴の約半数「自分のこと」	2022年10月15日	紹介 情報掲載
朝日新聞	自殺者昨年2万1584人	2023年1月21日	紹介 情報掲載
東京新聞	死亡見舞金を不支給	2023年2月18日	情報掲載
読売新聞	自殺2万1881人2年ぶり増	2023年3月15日	紹介 情報掲載
愛媛新聞	異変に気付き守る社会を	2023年3月15日	紹介 情報掲載

雑誌・書籍・刊行物・資料

トゥーヴァージンズ	HEARTSTOPPER 4巻	2022年6月	相談窓口として情報掲載
KADOKAWA	毒親に育てられました3	2022年8月	相談窓口として情報掲載
KADOKAWA	わたしの心と体を守る本 マンガでわかる!性と体の大切なこと	2022年8月	相談窓口として情報掲載
小学館	ひろゆき よのなかの攻略法 学校編	2022年12月	相談窓口として情報掲載
国民生活センター	2023年版くらしの豆知識	2023年度	相談窓口として情報掲載
認定NPO法人国際子ども権利センターC-Rights(シーライツ)	ウクライナからきたあなたへ	2023年1月	相談窓口として情報掲載
NHK出版	きみの人生はきみのもの 子どもが知っておきたい「権利」の話	2023年1月	相談窓口として情報掲載
Gakken	「学校」ってなんだ? 不登校について知る本	2023年2月	相談窓口として情報掲載
中央出版	日本子ども資料年鑑2023	2023年2月	相談窓口として情報掲載
KADOKAWA	「みんなと違う」自分を大切にする方法	2023年2月	相談窓口として情報掲載
ダイヤモンド社	NPOカタリバがみんなと作った 不登校親子のための教科書	2023年2月	相談窓口として情報掲載
トゥーヴァージンズ	This Winter: ディス・ウィンター	2023年3月	相談窓口として情報掲載
マイクロマガジン社	大人も知らない? サバイバル防災事典(仮)	2023年3月	相談窓口として情報掲載
西東社	ミラクルガール相談室 女子のトリセツ スマイルdays	2023年5月	相談窓口として情報掲載
開隆堂出版	中学校家庭科教科書	2025年度	相談窓口として情報掲載

チャイルドライン実施体制と運営

チャイルドラインは子どもの権利条約の理念に基づき、全国 67 の独立した団体が実施団体（2023 年 5 月現在）としてチャイルドライン支援センターと協働で活動しています。また、実施団体のない県や災害時でも子どもの声を受信できるよう、協力して体制を作っています。

実施団体は電話・オンラインチャットを実施し、受けとめた子どもの声を統一のデータベースに集約しています。また、それぞれの地域での、子どもへの広報、社会発信、行政や子ども支援団体との連携なども担っています。

チャイルドライン支援センターは、変化する子どもの環境・状況に対応できるようチャイルドライン実施団体の設立、運営を支援し、全国で受信した電話やオンラインチャット、「つぶやく」に書き込まれた声などを、集計・分析し、社会に向けて発信しています。また、子どもの権利が保障され、子どもが生きやすい社会になるように SDG s（持続可能な開発目標）達成に寄与することも視野にいれ、チャイルドライン支援議員連盟、CHI（Child Helpline International）や子ども支援の団体と連携しています。

全国各地のチャイルドライン

各地のチャイルドライン実施団体の運営形態はさまざまで、それぞれの地域の子どものに寄り添う活動を大切にしています。

運営形態

任意団体	30 団体
NPO 法人	29 団体
認定 NPO 法人	7 団体
公益社団法人	1 団体
社会福祉法人	1 団体

ボランティア

ボランティア数 1,812 名
昨年度（1,773 名）より 39 名増となりました。COVID-19 の影響の中、受け手養成講座や継続研修をオンラインで開催するなど工夫して活動に取り組みました。
ボランティアには、子どもの声を聴く「受け手」、受け手のケアを担う「支え手」、活動の運営を担うスタッフがいます。

活動資金

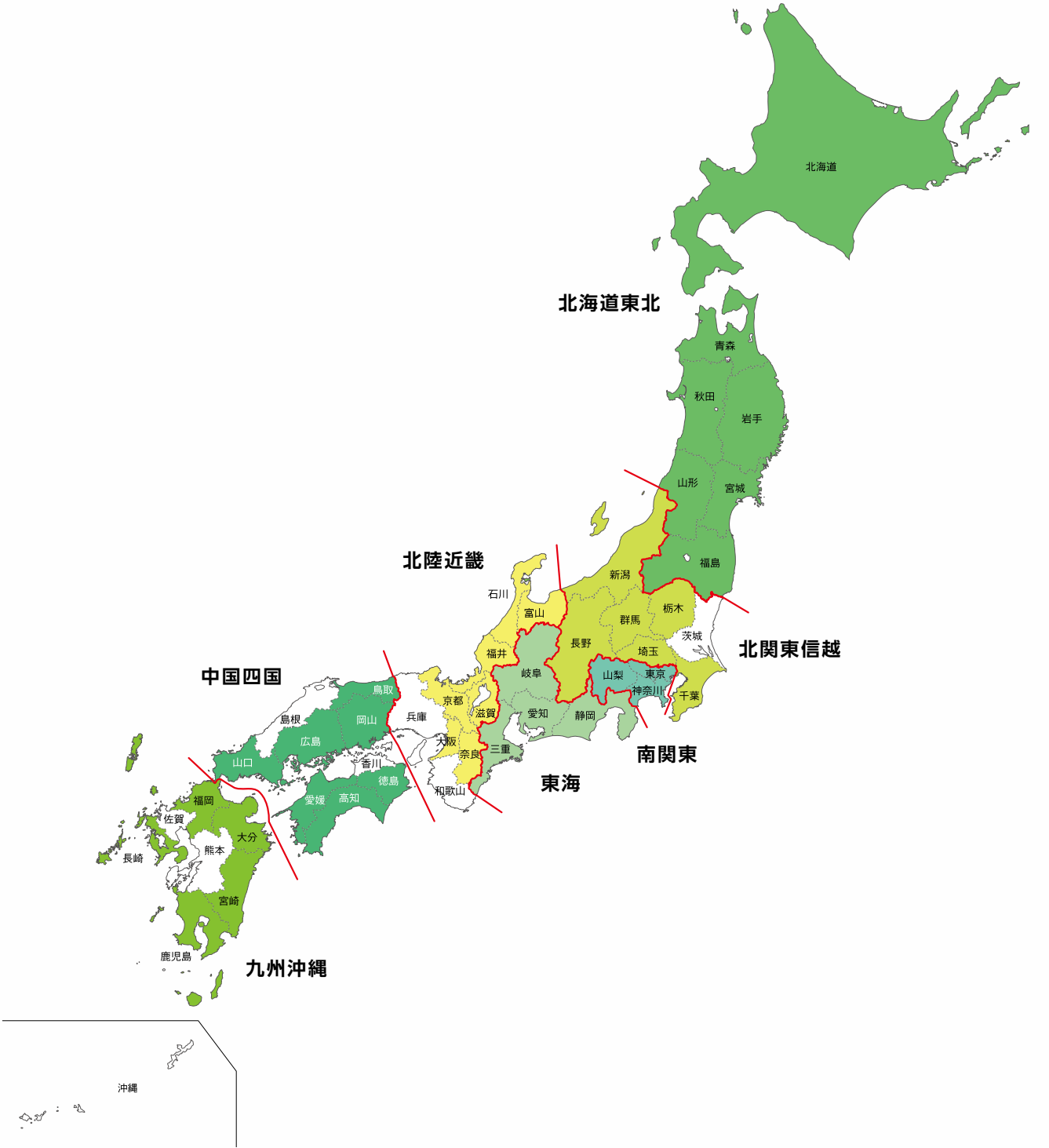
実施団体の年間支出額は約 1 億円、チャイルドライン支援センターと合わせると 1 億 5 千万円以上になりました。

実施団体は拠点の維持、子どもへの広報、ボランティアの養成講座、社会発信などのための資金調達もそれぞれで行っており、多くの個人・企業・行政のみなさまのご支援に支えられています。

支出額	団体数	比率
1,000 万円以上	1 団体	1.4%
500 ～ 999 万円	3 団体	4.3%
250 ～ 499 万円	3 団体	4.3%
100 ～ 249 万円	25 団体	35.7%
50 ～ 99.9 万円	12 団体	17.1%
50 万円未満	24 団体	34.3%

運営形態、ボランティア、活動資金は、2023 年 3 月 現在

チャイルドライン実施団体一覧



2023年5月1日現在 39都道府県67団体

エリア	所在地		チャイルドライン名	団体名	
北海道東北	北海道	札幌市	チャイルドラインほっかいどう	認定NPO法人チャイルドラインほっかいどう	011-272-3755
	青森県	青森市	チャイルドラインあおもり	チャイルドラインあおもり	090-4449-1488
		弘前市	チャイルドラインひろさき	チャイルドラインひろさき	090-3363-2750
	岩手県	盛岡市	チャイルドラインいわて	チャイルドラインいわて	090-9748-7557
	宮城県	仙台市	チャイルドラインみやぎ	NPO法人チャイルドラインみやぎ	022-279-7210
	秋田県	秋田市	チャイルドラインあきた	NPO法人あきた子どもネット	080-5490-1655
	山形県	鶴岡市	チャイルドライン庄内	NPO法人しえば	080-5845-8253
	福島県	福島市	チャイルドラインふくしま	チャイルドラインふくしま	024-563-4191
		郡山市	チャイルドラインこおりやま	チャイルドラインこおりやま	024-942-4036

エリア	所在地		チャイルドライン名	団体名	
北関東信越	新潟県	新潟市	チャイルドラインにいがた	チャイルドラインにいがた	090-6167-4158
	栃木県	宇都宮市	チャイルドラインとちぎ	認定NPO法人チャイルドラインとちぎ	info@cltochigi.org
	群馬県	前橋市	チャイルドラインぐんま	チャイルドラインぐんま	027-289-4365
	長野県	長野市	チャイルドラインながの	NPO法人ながのこどもの城	090-9667-0874
		上田市	チャイルドラインうえだ	NPO法人シャイン	090-3565-7086
		諏訪市	チャイルドラインすわ	NPO法人すわ子ども文化ステーション	0266-58-3494
		佐久市	チャイルドライン佐久	NPO法人チャイルドライン佐久	070-4189-0155
南関東	埼玉県	朝霞市	さいたまチャイルドライン	認定NPO法人さいたまチャイルドライン	048-486-7171
	千葉県	千葉市	チャイルドライン千葉	NPO法人子ども劇場千葉県センター	043-301-7262
	山梨県	韭崎市	チャイルドラインやまなし	チャイルドラインやまなし	080-5478-9933
	東京都	港区	みなとチャイルドライン	みなとチャイルドライン	090-7284-0378
		江東区	とうきょうかわのてチャイルドライン	NPO法人こうとう親子センター	03-3632-1717
		品川区	しながわチャイルドライン	NPO法人しながわチャイルドライン	03-5462-2868
		目黒区	めぐろチャイルドライン	NPO法人めぐろチャイルドライン	megurochildline@yahoo.co.jp
		世田谷区	せたがやチャイルドライン	社会福祉法人世田谷ボランティア協会	03-5712-5101
		中野区	チャイルドライン 中野子ども電話	チャイルドライン 中野子ども電話	080-3919-0489
		杉並区	チャイルドラインすぎなみ	チャイルドラインすぎなみ	BYK03200@nifty.ne.jp
		八王子市	八王子チャイルドラインコッコロ	NPO法人八王子チャイルドライン	090-4417-3355
		立川市	チャイルドラインたちかわ	チャイルドラインたちかわ	cl.tachikawa@gmail.com
		武蔵野市	チャイルドラインむさしの	NPO法人チャイルドラインむさしの	080-5679-5100
		狛江市	こまえチャイルドライン	こまえチャイルドライン	03-3489-4583
		横浜市	よこはまチャイルドライン	認定NPO法人よこはまチャイルドライン	045-342-0255
	神奈川県	川崎市	かわさきチャイルドライン	かわさきチャイルドライン	080-6756-7763
東海	岐阜県	岐阜市	チャイルドラインぎふ	NPO法人チャイルドラインぎふ	080-1550-6050
	静岡県	焼津市	しずおかチャイルドライン	NPO法人静岡県家庭教育サポート協会	054-631-6762
		浜松市	はままつチャイルドライン	はままつチャイルドライン	ykaoki1@gmail.com
	愛知県	名古屋	チャイルドラインあいち	NPO法人チャイルドラインあいち	052-822-2801
		安城市	チャイルドラインみかわ	NPO法人おやこでのびっこ安城	0566-77-7085
北陸近畿	三重県	津市	チャイルドラインMIE	認定NPO法人チャイルドヘルプラインMIEネットワーク	059-211-0024
	富山県	富山市	とやまチャイルドライン	とやまチャイルドライン愛ランド	090-3764-3666
	石川県	金沢市	チャイルドライン・いしかわ	子ども夢フォーラム	076-214-5680
	福井県	福井市	ふくいチャイルドライン	認定NPO法人福井県子どもNPOセンター	0776-97-8460
	滋賀県	大津市	しがチャイルドライン	NPO法人CASN	077-537-5922
	奈良県	奈良市	チャイルドラインなら	NPO法人チャイルドラインなら	0742-20-0202
	京都府	京都市	チャイルドライン京都	NPO法人チャイルドライン京都	075-585-3038
	大阪府	大阪市	チャイルドラインOSAKA	公益社団法人子ども情報研究センター	06-4708-7087
		吹田市	チャイルドラインすいた	こらぼれチップス	clsuita627@gmail.com
		富田林市	チャイルドラインとんだばやし	NPO法人チャイルドラインとんだばやし	080-1415-3699
		和泉市	チャイルドラインいずみ	いずみこどもAID	070-8467-2747
		東大阪市	チャイルドラインひがしおおさか	チャイルドラインひがしおおさか	090-3493-8268
		阪南市	チャイルドラインはらっぱ	NPO法人子どもNPOはらっぱ	072-471-2276
		倉吉市	チャイルドラインうさぎのみみ	チャイルドラインうさぎのみみ	090-6432-2967
中国四国	岡山県	岡山市	チャイルドラインおかやま	NPO法人チャイルドラインおかやま	086-956-3700
	広島県	広島市	ひろしまチャイルドライン	NPO法人ひろしまチャイルドライン子どもステーション	082-233-8655
		福山市	チャイルドラインびんご	子どもサポネット「ハートフル」	090-8712-1803
	山口県	宇部市	チャイルドラインやまぐち	NPO法人子ども劇場山口県センター	0836-32-4287
		岩国市	チャイルドライン岩国ステーション	チャイルドライン岩国ステーション	080-1636-1135
		下関市	チャイルドラインしものせき	チャイルドラインしものせき	083-256-6888
	徳島県	徳島市	とくしまチャイルドライン	とくしまチャイルドライン	088-669-2776
	愛媛県	松山市	子ども電話「ひびき」	チャイルドライン ハートコール「えひめ	080-923-9558
	高知県	高知市	チャイルドラインこうち	チャイルドラインこうち	090-1320-8871
九州沖縄	福岡県	北九州市	チャイルドライン北九州	NPO法人チャイルドライン北九州	090-7924-5036
		福岡市	チャイルドライン「もしもしキモチ」	認定NPO法人チャイルドライン「もしもしキモチ」	092-734-1540
	長崎県	長崎市	チャイルドラインながさき	NPO法人チャイルドラインながさき	095-801-5521
		佐世保市	チャイルドラインさせぼ	チャイルドラインさせぼ	0956-24-0214
	大分県	大分市	チャイルドラインおおいた	チャイルドラインおおいた	090-3322-3699
	宮崎県	宮崎市	チャイルドラインみやざき	NPO法人チャイルドラインみやざき	0985-41-8228
	鹿児島県	鹿児島市	チャイルドラインかごしま	チャイルドラインかごしま	cl-kagoshima_200926@po3.synapse.ne.jp

チャイルドライン支援センター

会員数	正会員：個人 36 名		団体 67	支援会員：個人 30 名		団体 4
役員一覧						
代表理事	竹村 浩	認定 NPO 法人チャイルドヘルプライン MIE ネットワーク 専務理事・事務局長（チャイルドライン MIE）				
専務理事	平井 貴美子	チャイルドラインおおいた代表				
常務理事	上野 和子	NPO 法人ひろしまチャイルドライン子どもステーション理事長				
常務理事	関戸 真紀	いずみこども AID 役員（チャイルドラインいずみ）				
常務理事	高橋 弘恵	NPO 法人チャイルドラインあいち専務理事 子どもアドボカシー学会理事				
理 事	青木 高	公益社団法人日本フィランソロピー協会事務局長				
理 事	金子 由美子	NPO 法人さいたまユースサポートネット副代表				
理 事	後藤 幾子	NPO 法人みやざき子ども文化センター理事 みやざき女性自立活躍支援ネットワーク代表世話人				
理 事	小松 久子	チャイルドラインすぎなみ副代表・監事				
理 事	佐伯 典合子	チャイルドラインハートコール・えひめ事務局長				
理 事	須藤 充弘	チャイルドラインあおもり代表理事（共同）				
理 事	徳丸 のり子	NPO 法人よこはまチャイルドライン代表理事				
理 事	中村 尊	NPO 法人チャイルドライン・ながさき共同代表 NPO 法人フリースクール全国ネットワーク代表理事				
理 事	中村 幸恵	NPO 法人子ども劇場千葉県センター理事（チャイルドライン千葉）				
理 事	堀 正嗣	熊本学園大学社会福祉学部教授 子どもアドボカシー学会会長				
理 事	丸茂ひろみ	社会福祉法人みどの福祉会理事 チャイルドラインぐんま				
監 事	鈴木 綾	NPO 法人こおりやま子ども若者ネットワーク理事長 一般社団法人若者協同実践全国フォーラム理事				
監 事	西崎 宏美	認定 NPO 法人子どもシェルターモモ専務理事				
(2023 年 5 月 1 日現在)						

財務状況 2022 年度（2022 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日）

経常収益	受取会費	2,560,000円
	受取寄付金	12,865,678円
	受取補助金	46,585,000円
	受取助成金	1,178,717円
	事業収益その他（資料代）	4,663,914円
	（協賛金）	1,000,000円
	（孤独孤立協力金）	1,577,436
	経常収益計	69,430,745円
経常費用	社会的認識向上	4,669,885円
	設立運営支援	37,415,736円
	研修	3,946,875円
	社会発信	6,603,043円
	ファンド	467,775円
	管理費	5,892,283円
	経常費用計	58,995,59円

編集後記

2022 年度は、社会がコロナ禍から日常を取り戻しつつあった一年でした。そして、2023 年 5 月 8 日から新型コロナウイルス感染症は 5 類感染症に移行され、社会的には終息しました。けれど、子どもにとってこの 3 年は、様々な体験機会を喪失し、マスク越しに必要最小限のコミュニケーションのみを求められる、人間関係を構築しづらい時間でした。その影響はこれから表出してくるのではないのでしょうか。2022 年の児童生徒の自殺者数が過去最多となったのもその一端かもしれません。

コロナ禍がもたらした課題、コロナ禍以前から存在する課題、子どもの声から見えてくるそれらを発信することがチャイルドラインの重要な使命です。そして、皆さまと連携、協力しながら、子どもが生きやすい社会をめざしてこれからも活動を続けてまいります。

「2023 チャイルドライン年次報告」の発行にあたり、活動にご支援・ご協力いただいた皆さま、ともに活動している全国のチャイルドライン実施団体に心より感謝いたします。

チャイルドライン支援センター
子どもの「声」の代弁・社会発信力強化プロジェクトチーム

2023チャイルドライン年次報告
CHILDLINE ANNUAL REPORT 2023

発行日：2023年7月20日 第1版 第1刷
発 行：特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター（認定NPO）
〒162-0808 東京都新宿区天神町14 神楽坂藤井ビル5階
TEL：03-5946-8500 FAX：03-5946-8501
E-mail：info@childline.or.jp URL: https://childline.or.jp
表紙・レイアウト・デザイン：イノウデデザイン株式会社
印刷製本：株式会社グラフィック

※無断で複製・転載することを禁じます
※「チャイルドライン」および「チャイルドライン・キャラクター」は特定非営利活動法人チャイルドライン支援センターの登録商標です。



公益財団法人 J K A
競輪補助事業 <https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>